

第8回 ごみゼロプラン推進委員会 事項書

平成20年3月24日(月)

プラザ洞津3F紅葉の間

- 1 開会あいさつ 大林総括室長 5分
- 2 議事 進行：広瀬委員長（高屋副委員長）
- 平成19年度ごみゼロプラン推進の取組状況について
- (1) 平成19年度プラン推進モデル事業の取組状況 資料1 10分
- (2) 市町ごみ処理システム最適化（廃棄物会計等） 資料2 15分
- (3) ごみゼロセミナー、地域交流会等の開催状況 資料3 5分
- 質疑応答・協議 - 約20分
- (4) 県民意識調査結果の概要 資料4 15分
- 質疑応答・協議 - 約15分
- 平成20年度のプラン推進について
- (5) 平成20年度事業計画・スケジュール 資料5 5分
- (6) 平成20年度当初予算概要 資料6 5分
- 質疑応答・協議 - 約10分
- その他
- 3 閉会

所要時間 約120分

第8回委員会出席者名簿

敬称略

	氏名	所属団体・役職等	備考
県民	高屋 充子	きれいな伊勢志摩づくり連絡会議 会長	
	立田 彰子	伊賀環境問題研究会	
	羽根 いち子	元 桑名市廃棄物減量・再資源化等 推進審議会委員	
事業者	西村 統武	マックスバリュ中部株式会社 執行役員総務部長	欠席
	服部 茂樹	北勢商事株式会社代表取締役 三重県古紙卸協同組合理事長	
	村田 清 (日高哲哉)	井村屋製菓株式会社 執行役員内部統制室長	(代理出席)
団体・NPO	植村 静子	三重県消費者団体連絡協議会会長	欠席
	長尾 計昌	34530会会長	
	新居 遠一	三重県子ども会連合会常務理事	
	野中 良成	三重県PTA連合会会長	
学識者	岩崎 恭典	四日市大学総合政策学部教授	欠席
	金谷 健	滋賀県立大学環境科学部准教授	
	広瀬 幸雄	名古屋大学大学院教授	
市町	近藤 茂広	三重県市町村清掃協議会 (桑名市環境部廃棄物対策課長)	欠席
	福田 伸次	三重県市町村清掃協議会 (伊賀市生活環境部清掃事業課長)	欠席

H19プラン推進モデル事業の状況について

○平成19年度モデル事業一覧

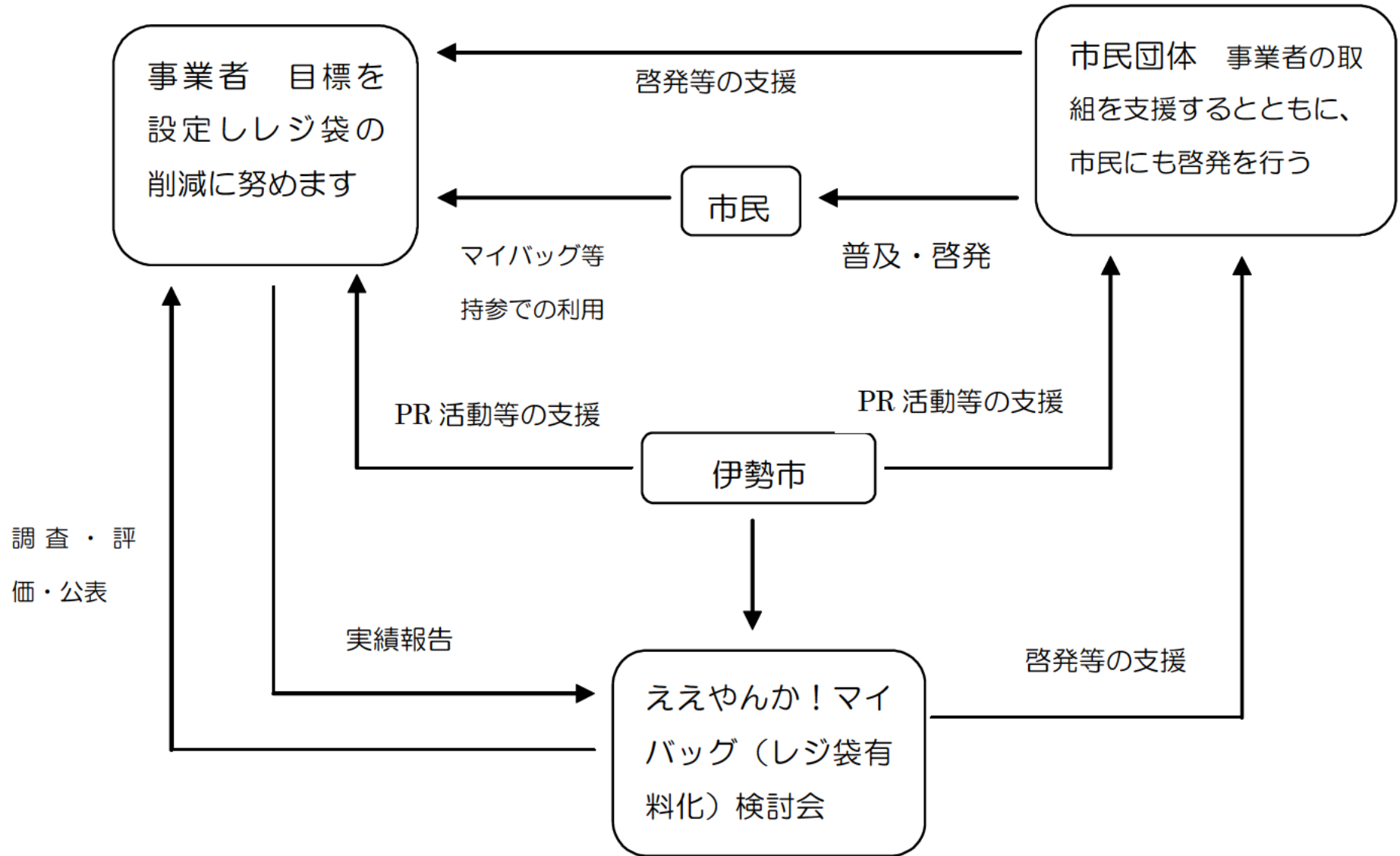
市町村	事業概要と成果
伊勢市	<p>「レジ袋削減(有料化の導入)検討事業」 (補助額 479千円)</p> <p>さらなるレジ袋の削減をめざして、市民、事業者、市等で構成する「ええやんか マイバッグ (レジ袋有料化) 検討会」において、マイバッグ持参率 50%以上実現のため、レジ袋有料化も含めた議論を進め、事業者との自主協定の締結や、市民への啓発活動等を展開する。</p>
伊勢市	<p>「埋立ごみ(ガラス・陶磁器くず等)の分別収集システム検討事業」 (補助額 905千円)</p> <p>リサイクルの一層の進展や最終処分量の削減をめざして、新たな分別収集区分(ガラス・陶磁器類)の実施に併せて、自治会単位での回収ステーション整備を行い、自治会による自主・自律的な集団回収への移行を促進する。</p>
津市	<p>「エコパートナー・ネットワーク推進事業」 (補助額 696千円)</p> <p>市民が自発的にごみの減量化や環境について「知る」「考える」「行動する」雰囲気づくりと実践をめざし、ごみ焼却施設である西部クリーンセンター内に市民が運営する市民エコ活動センターを開設し、ここを活動拠点・市民へのエコ情報発信基地として、ごみの減量化・エコ活動を行うひとづくり・ネットワークづくりを展開する。</p>

伊勢市「レジ袋削減(有料化の導入)検討事業」

-経過-

- ・19. 5. 1 第1回検討会(懇談会) 検討組織発足準備、今後の進め方
- 6. 1 第2回検討会(懇談会) ※検討会の名称ならびに座長を決定 座長は朴恵淑 三重大学学長補佐
- 6. 17 レジ袋大幅削減・マイバッグ持参シンポジウム 約300名参加
講演:三重大学 朴学長補佐、イオン(株)グループ 上山静一 氏
パネルディスカッション:上記両氏、事業者(店舗)代表、商店街連合会、NPO、地元小学生、
市長等による討論、東ごみゼロ推進室長もパネリスト参加
- 6. 29 第3回検討会(ええやんか! マイバッグ(レジ袋有料化)検討会) 協定書、キャンペーン等
- 7. 6 第4回検討会 今後の取組スケジュール、キャンペーン等
- 7. 13 市報道発表 9/21から有料化開始
- 7. 20 第5回検討会 協定書内容、募集要項等
- 8. 3 第6回検討会 キャンペーン実施要領、協定書内容等
- 8/4~ 毎土日曜日、有料化実施21店舗でのキャラバン隊事前告知キャンペーン実施
~9/9 (各店舗2回ずつ、一部市長参加、8月は県からも人を出して応援)
- 8. 24 第7回検討会 協定式、協定書内容
- 9. 11 レジ袋大幅削減のためのマイバッグ持参運動及びレジ袋有料化に関する協定式
市役所にて、座長、市長、事業者、NPO代表等が出席
- 9. 21 **有料化スタート(7事業者・21店舗)**
※伊勢市・宇治山田両駅前当日告知実施(座長、市長も参加)
- 10. 26 第8回検討会
※有料化後の状況確認(大きな混乱は全く無し)
※10月マイバッグ持参率88.8%(各店舗算出%値の単純平均)
※有料化による「収益」金の使途
- 11. 18 地域ごみゼロ交流会(県主催)
有料化の経緯、現場店舗の声など、約2ヶ月経過後の状況も含め、地元住民
(活動団体)向けに、市担当課長と事業者代表の2氏を招いて、報告・意見交換
- 12. 12 市報道発表 ※11月マイバッグ持参率:90.4%(各店舗報告実数による平均)
- ・20. 1. 18 第9回検討会 有料化報告会、有料化「収益」金の使途等
- 3. 23 「伊勢市レジ袋有料化等シンポジウム~レジ袋有料化半年が経過して~」開催

—推進体制—



19.6.17シンポジウム 「レジ袋削減宣言」



19.9.11協定式



19.9.21有料化スタート 当日の駅前告知活動



告知キャンペーン 店舗掲示ポスター→



伊勢市・市民団体・事業者が協働で取組みます

「レジ袋大幅削減・マイバッグ持参運動」

平成19年9月21日レジ袋有料化スタート

「ええやんか! マイバッグ・いらんやんか! レジ袋」で伊勢を環境先進都市へ

伊勢市 伊勢平丸

実行委員会: 伊勢市 環境部 資源循環課 TEL.0596-21-5548

20/3/23 シンポジウムポスター

伊勢市レジ袋有料化等シンポジウム

日時: 平成20年3月23日(日) 13:30~15:30(13:00開場) 入場料無料

場所: 伊勢市ハートプラザみその 多目的ホール (伊勢市御前町長屋267) 定員300名(先着順)

内容:

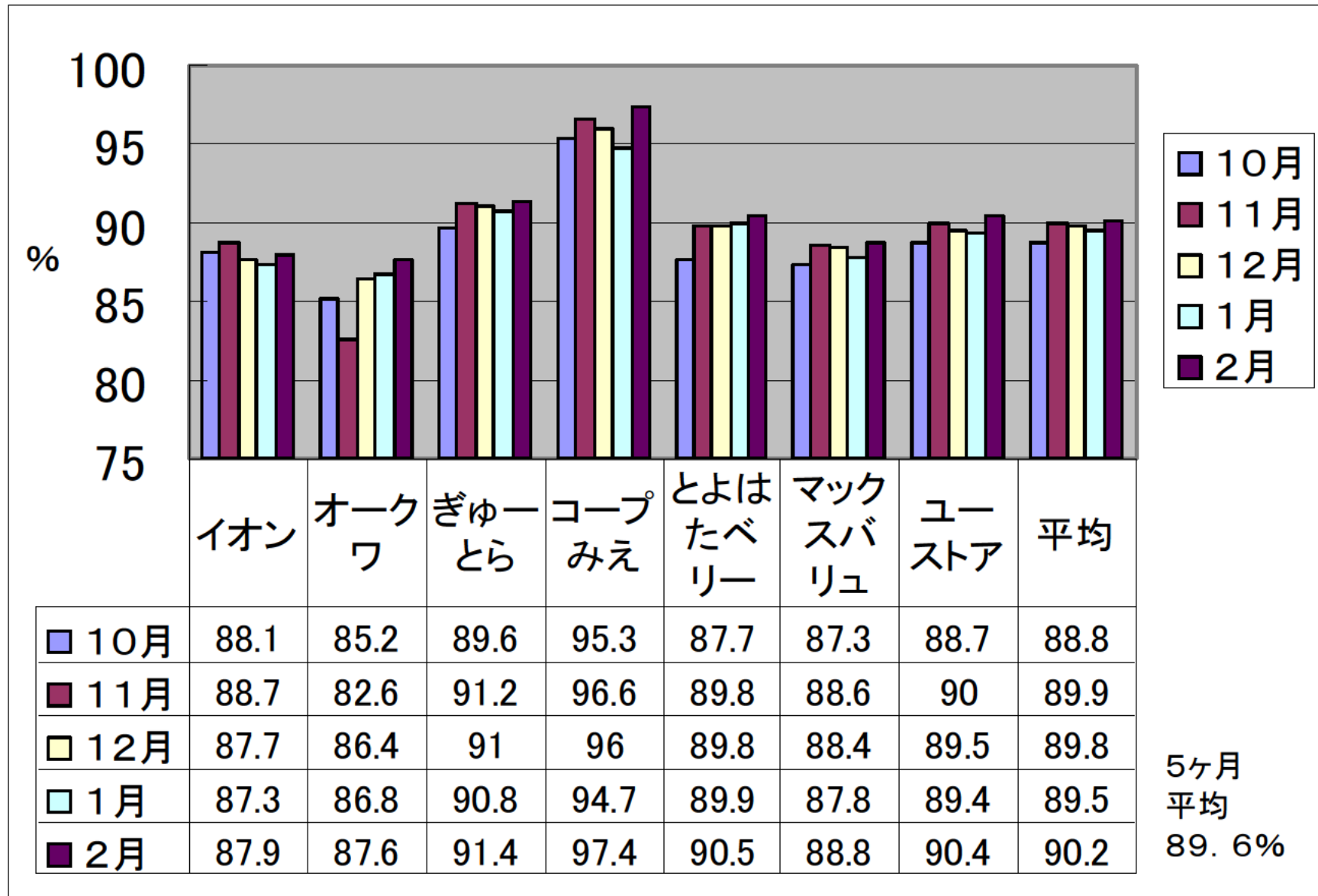
- 対談(環境先進都市「いせ」を目指して)
 - 伊勢市長 森下隆生 VS 朴 恵淑氏 (環境文化学研究所 准教授)
- パネルディスカッション
 - 「市民・事業者・行政が協働、それぞれの想い! ええやんか! マイバッグ(レジ袋有料化) 検討会」の今後の取り組みについて
 - ◆質疑応答・意見交換

参加者には林都ライオンズクラブ会員のマイバッグをプレゼント!

レジ袋の大幅削減・マイバッグ持参運動の取組みの活動報告・発表を行い検証・PRを行うとともに、意見交換を通じて、情報共有・交流の機会となるシンポジウムを開催します。ご来場をお待ちしております。

主催: ええやんか! マイバッグ(レジ袋有料化)検討会-伊勢市
 協賛: ええやんか! 伊勢市環境部資源循環課 TEL.0596-21-5548

マイバッグ持参率の推移



店舗数ーイオン:1、オークワ:2、ぎゅーとら:9、コープみえ:1、
とよはたベリー:4、マックスバリュ中部:3、ユーストア:1

伊勢市「埋立ごみ(ガラス・陶磁器くず)等の 分別収集システム検討事業」

地域自治会の集団回収(住民持込)による資源ごみの回収と処理の仕組みづくり

○集団回収ステーションの整備 → 主に郊外部の住宅地等に自治会単位で1箇所(計2箇所)

新分別収集区分である「ガラス」と「陶磁器くず」

「ガラス」: 飲料びん(色別分別) / その他ガラス類

「陶磁器くず」: 種別の分別はせず(そのまま混在)

◇市が処理ルートを確認

◇市が搬出、事業者がリサイクル処理

その他資源ごみ(新聞紙、アルミ缶等)

ステーションへ回収、集積

◇市が売却ルートを調整支援

◇自治会が売却し、自らの収益に

年間約1000トンの埋立ごみの半分以上を占めると推定されるガラス・陶磁器くず類の削減へ

地域集団回収ステーション

設置場所:①西豊浜町 ②辻久台団地

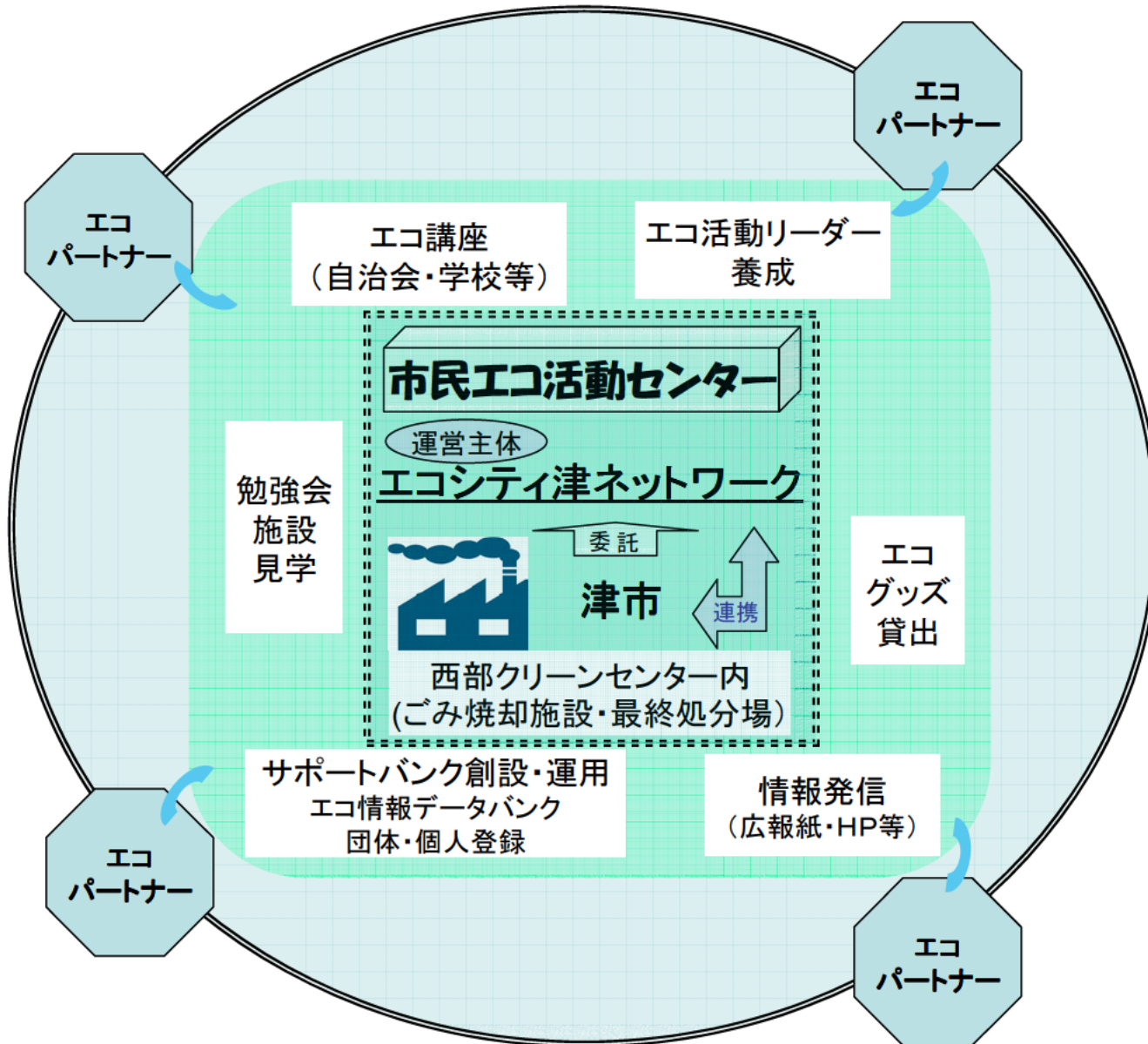
主に郊外部の住宅地において、地元自治会により管理運営されるステーションの設置を行う。

※写真は西豊浜町の上区自治会管内のステーション



津市「エコパートナー・ネットワーク推進事業」

エコパートナーネットワークを推進する



エコパートナーネットワークを推進する

市民エコ活動センター



左側の建物
内の事務所に
開設



津市西部クリーンセンター



津地域ごみゼロ交流会として
約40名の方々がご参加

オープニング行事開催
(H20. 3. 1)



リターナブルびん
等の展示

エコ講座の開催

～ エコライフ講座 ～

○H20. 2. 26 美里地区 参加人数: 約20名

○H20. 3. 12 津地区 参加人数: 約10名

○H20. 3. 13 津地区 参加人数: 約20名

※テーマ

- ・地球温暖化防止
- ・3R活動の推進 等

地域で環境活動に取り組む
方々の間での意見交換・情
報交流を図りました。



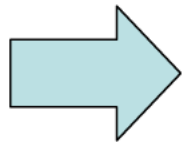
市町ごみ処理システムの最適化(廃棄物会計等)

1. 廃棄物会計基準の策定背景

■ 廃棄物処理法に基づく基本方針の改正(平成17年5月)

地方公共団体の役割・国の役割

- [1] 適正な循環的利用や処分を進める上での必要性を踏まえ、広域的な取組を図るものとする。
- [2] コスト分析及び情報提供を行い、分析結果をさまざまな角度から検討すること等により、社会経済的に効率的な事業となるよう努める。
- [3] また、経済的インセンティブを活用した一般廃棄物の排出抑制・再生利用等を進めるため、一般廃棄物処理の有料化の推進を図るべきである。



国においては、コスト分析手法、有料化の進め方等を示すことなどを通じて、地方公共団体の取組の支援に努める。

- コスト分析の対象となる費目の定義
- 共通経費等の配賦方法
- 減価償却方法

2. 廃棄物会計の意義・目的

■ 一般廃棄物会計基準の意義

「一般廃棄物会計基準」とは、一般廃棄物処理事業に係るコスト分析の標準的手法を示すもので、自治体が一般廃棄物処理事業の財務面について現状把握を行う際に用いられる。

■ 廃棄物会計基準の目的

①外部公表目的

- 一般廃棄物会計基準に従って作成した一般廃棄物処理事業の財務諸表を公表することで社会に対する説明責任を果たす。

②内部管理目的

- 一般廃棄物会計を一般廃棄物処理事業の管理ツールとして利用することによって、一般廃棄物処理事業の効率化を図る。

3. 廃棄物会計の構成

- **原価計算書**（一般廃棄物の処理に関する事業に係る原価計算書）

市町が行う直営又は委託により行う一般廃棄物処理（収集運搬、中間処理、資源化、最終処分）について、一般廃棄物種毎に対象期間に要した費用及び得られた収益を表したもの。取扱量あたりの単価で表現する。

- **行政コスト計算書**（一般廃棄物の処理に関する事業に係る行政コスト計算書）

市町が行う「一般廃棄物処理（原価計算書の対象）」を含む、一般廃棄物の処理に関する事業について、対象期間に要した費用及び得られた収益を表したもの。計画策定、広報・普及啓発の費用、特別損失なども含む。

- **資産・負債一覧**（一般廃棄物の処理に関する事業に係る資産・負債一覧）

一般廃棄物の処理に関する事業に係る資産及び負債の状況を整理して表したもの。

【原価計算書の様式】

	① 燃やすごみ	② 燃やさないごみ	③ 粗大ごみ	合計
<原価>				
収集運搬部門原価 (円/kg-収集運搬量)				
中間処理部門原価 (円/kg-中間処理投入量)				
最終処分部門原価 (円/kg-最終処分投入量)				
資源化部門原価 (円/kg-資源化投入量)				

[参考] <費用>				
収集運搬部門費 (円/年)				
中間処理部門費 (円/年)				
最終処分部門費 (円/年)				
資源化部門費 (円/年)				
作業部門費合計 (円/年)				
管理部門費 (円/年)				
費用合計 (円/年)				

[参考] <収益>				
収益合計 (円/年)				

収集運搬部門	① 燃やすごみ	② 燃やさないごみ	③ 粗大ごみ	④ アルミ缶	⑤ スチール缶
委託料 (円/年)	0	0	0	0	0
正職員人件費 (円/年)	0	3,771,754	0	16,133,847	7,772,591
臨時職員人件費 (円/年)	0	44,084	0	188,569	90,845
退職給付引当金繰入額 (円/年)	0	199,047	0	851,434	410,184
コンテナ等特定の廃棄物種類に係る 物件費	0	0	0	205,050	154,950
コンテナ等の配布委託料 (円/年)	0	0	0	0	0
車両リース・レンタル費 (円/年)	0	0	0	0	0
車両雇上費 (円/年)	0	0	0	0	0
車両減価償却費 (円/年)	0	233,948	0	1,784,716	785,253
車両燃料費 (円/年)	0	36,541	0	288,568	130,297
車両維持管理費 (円/年)	0	44,343	0	339,633	149,893
付帯施設の維持管理費 (円/年)	0	421,307	0	602,633	454,908
付帯施設建築物の減価償却費 (円/年)	0	0	0	0	0
付帯施設装置の減価償却費 (円/年)	0	0	0	0	0
付帯施設重機の減価償却費 (円/年)	0	0	0	0	0
共通の物件費 (円/年)	0	0	0	0	0
特定の施設に係る経費 (円/年)	0	0	0	0	0
共通の経費 (円/年)	0	0	0	0	0

委託収集運搬費用 (円/年)	0	0	0	0	0
直営収集運搬費用 (円/年)	0	4,751,025	0	20,394,448	9,948,920
収集運搬部門費用 (円/年)	0	4,751,025	0	20,394,448	9,948,920

委託収集運搬量 (t/年)	0	0	0	0	0
直営収集運搬量 (t/年)	7090	123	0	38	50
収集運搬量 (t/年)	7,090	123	0	38	50

委託収集運搬単価 (円/kg)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
直営収集運搬単価 (円/kg)	0.00	38.63	0.00	536.70	198.98
収集運搬単価 (円/kg)	0.00	38.63	0.00	536.70	198.98

4. 廃棄物会計によるコスト算出事例

下記の自治体を対象に、廃棄物会計基準により原価を算出しました。

○自治体A

項目	概要
人口	311,904人
可住地面積	205.30km ²
廃棄物処理体系	収集運搬:可燃ごみ、不燃ごみ、その他資源は民間委託と直営の併用、それ以外は民間委託。 中間処理:すべて直営。 最終処分:不燃ごみが一部事務組合と直営の併用、粗大ごみは直営。 資源化:すべて民間委託。

【自治体A】

○ 原価計算書

	① 燃やすごみ	② 燃やさないごみ	③ 粗大ごみ	④ アルミ缶	⑤ スチール缶	⑥ 無色のガラス製の容器	⑦ 茶色のガラス製の容器	⑧ その他のガラス製の容器	⑩ ペットボトル	⑭ 紙パック	⑮ 段ボール	⑯ 古紙	⑰ 古布	⑱ その他の資源ごみ	合計
<原価>															
収集運搬部門原価 (円/kg-収集運搬量)	14.80	8.46	98.15	35.89	24.95	7.11	7.11	7.11	63.95	39.27	6.05	3.67	10.45	80.38	14.61
中間処理部門原価 (円/kg-中間処理投入量)	15.06	-	15.06	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15.06
最終処分部門原価 (円/kg-最終処分投入量)	-	13.42	13.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13.42
資源化部門原価 (円/kg-資源化投入量)	15.12	-	-	6.22	6.22	6.22	6.22	6.22	-	6.22	6.22	6.22	6.22	134.90	11.99

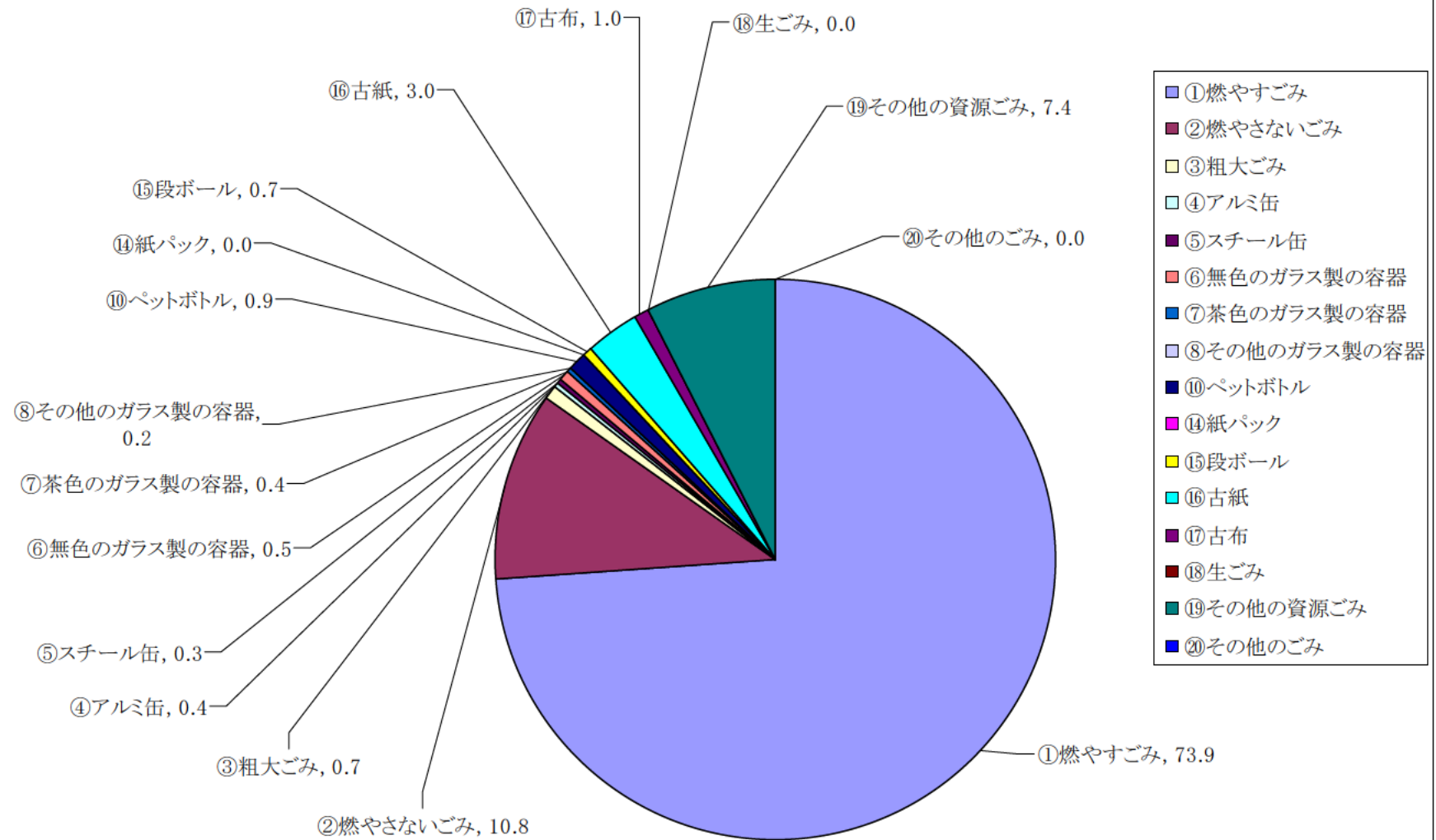
<費用>

収集運搬部門費 (円/年)	756,552,298	101,165,288	18,060,000	10,049,916	7,436,031	7,837,365	6,038,043	2,610,084	27,947,401	746,194	10,948,360	36,386,410	19,779,874	203,849,575	1,209,406,839
中間処理部門費 (円/年)	1,321,533,592	0	933,712	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,322,467,304
最終処分部門費 (円/年)	0	253,966,187	1,616,989	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	255,583,176
資源化部門費 (円/年)	346,835,415	0	0	1,741,129	1,853,059	6,852,588	5,279,353	2,282,123	0	118,148	11,248,940	61,654,637	11,771,279	25,900,195	475,536,866
作業部門費合計 (円/年)	2,424,921,306	355,131,475	20,610,700	11,791,046	9,289,090	14,689,953	11,317,396	4,892,208	27,947,401	864,342	22,197,300	98,041,046	31,551,153	229,749,769	3,262,994,185
管理部門費 (円/年)	130,095,377	19,052,562	2,095,375	632,582	498,353	1,900,180	1,463,933	632,819	1,499,359	46,371	1,190,870	5,259,835	1,692,698	26,825,798	192,886,111
費用合計 (円/年)	2,555,016,682	374,184,037	22,706,076	12,423,627	9,787,443	16,590,133	12,781,328	5,525,026	29,446,760	910,713	23,388,170	103,300,882	33,243,850	256,575,567	3,455,880,296

<収益>

収益合計 (円/年)	628,517,650	53,837,440	8,337,000	33,356,544	5,074,277	0	0	0	3,214,743	100,983	6,872,774	44,532,175	3,691,041	7,019,211	794,553,838
---------------	-------------	------------	-----------	------------	-----------	---	---	---	-----------	---------	-----------	------------	-----------	-----------	-------------

廃棄物・資源物の処理等に要する費用内訳(品目別)



5. 廃棄物会計の活用事例

● 管理会計としての活用

一般廃棄物会計基準に基づき財務書類を経年的に作成することにより、一般廃棄物処理に関する事業の効率性などを把握し、各種施策（収集体制の変更、処理方法の変更など）に反映する。

● 住民への情報開示の基礎資料としての活用

清掃事業概要や広報資料などで一般廃棄物処理事業に係るコストなどについて情報開示を行う際に、一般廃棄物会計基準に基づき財務書類を作成することにより、一般廃棄物処理事業に関する自治体の説明責任を果たすことが可能となる。

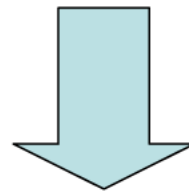
● 一般廃棄物処理に関する新規施策の導入に係る事業効果評価への活用

新規施策（例えば、焼却処理・埋立処分から、焼却・灰溶融スラグ化への変更など）を導入した場合に、費用の絶対額や費用構成がどのように変化したかを検証することで、新規施策の効果を定量的に評価する（事前評価（シミュレーション評価）、事後評価）。

6. 市町ごみ処理システムの最適化に向けて

【市町ごみ処理カルテ】

- 市町のごみ処理事業の効果をごみの排出量、資源回収量、エネルギー回収量、最終処分量の削減、二酸化炭素の排出量削減、住民サービス水準、処理コスト等の複数の指標により評価を行う
- また、ごみ処理施設の基本情報(処理方式、稼働年、熱回収等)、ごみ処理有料化や生ごみ堆肥化の取組などの施策情報を網羅的に管理



市町毎に類似市町との比較

市町のごみ処理事業の強みや弱みを明確にし、市町ごみ処理システムの一層の効率化を図るためのツールとしての活用が期待される

【市町ごみ処理カルテ案】

(構成案)

カルテは以下の事項から構成

- ・基本情報
- ・ごみ処理状況
- ・減量化施策
- ・施設情報
- ・比較分析
- ・総括表 など

ごみ処理カルテ総括表

【総括】

自治体名		分別数	
人口		ごみ処理有料化	
世帯数		ごみ処理有料化処理手数料	
ごみ排出量		ごみ処理経費	
1人1日あたりのごみ排出量		ごみ処理基本計画	
生活系ごみ排出量削減率		資源化率	
事業系ごみ排出量削減率		最終処分量	
資源としての再利用率		集団回収量	

【処理システムの概要】

中間処理	
最終処分	

【一般廃棄物処理システム比較分析】

【ごみ処理システム分析結果】

- 廃棄物の発生
- 再生利用
- エネルギー回収・利用
- 最終処分
- 温室効果ガスの排出
- 廃棄物処理サービス
- 費用対効果

ごみ処理状況
【ごみ処理】

	生活系		事業系		収集運搬			中間処理			委託状況 処理区分	
	手数料	徴収方式	手数料	徴収方式	実施形態	収集回数	収集方式	実施形態	収集回数	収集方式		
可燃ごみ												
不燃ごみ												
資源ごみ	紙											
	金属											
	ガラス											
	ペットボトル											
	プラスチック											
	布類											
	生ごみ											
その他												
粗大ごみ												
その他												

【分別状況】

分別数	
分別種類	

【ごみ処理体制】

＜収集運搬機材＞

直営分	収集車	台数	直営分	委託分	許可分
	積載量				
	運搬車	台数			
	積載量				
	運搬船等の船舶	台数			
	積載量				

＜従事職員＞

一般職	事務系	
技能職	技術系	
	収集運搬	
	中間処理	
	最終処分	
	その他	
合計		

＜委託・許可件数＞

収集運搬	委託	許可
中間処理	委託	
	許可	
最終処分	委託	
	許可	
合計		

【ごみ経費】

＜歳入＞

特定財源 (市町村分 担金を除く)	国庫支出金
	都道府県支出金
	地方債
	使用料及び手数料 (市区町村分担金)
	その他
一般財源	
合計	

＜歳出＞

建設改良費 (工事費+ 調査費)	工事費	合計
		中間処理施設
		最終処分場
		その他
	調査費 (建設改良費組合分担金)	
	合計	
処理及び 維持管理費 (人件費+ 処理費+ 車両購入費+ 委託費+ 調査研究費)	人件費	合計
	処理費	収集運搬費
		中間処理費
		最終処分費
	車両等購入費	
	委託費	
	合計	
	収集運搬費	
	中間処理費	
	最終処分費	
	その他	
	(組合分担金)	
	調査研究費	
	合計	
その他		
合計		

＜ごみ種類別原価＞

	収集運搬部門原価	中間処理部門原価	最終処分部門原価	資源化部門原価
①燃やすごみ				
②燃やさないごみ				
③粗大ごみ				
④アルミ缶				
⑤スチール缶				
⑥無色のガラス製の容器				
⑦茶色のガラス製の容器				
⑧その他のガラス製の容器				
⑨リターナブルびん				
⑩ペットボトル				
⑪白色トレイ				
⑫プラスチック製容器包装				
⑬紙製容器包装				
⑭紙パック				
⑮段ボール				
⑯古紙				
⑰古布				
⑱生ごみ				
⑲その他の資源ごみ				
⑳その他のごみ				

減量化施策

【基本方向1】拡大生産者責任の徹底

基本取組	基本取組の具体的な内容	取組状況
1-1 拡大生産者責任と費用負担のあり方の検討	(1) 拡大生産者責任と費用負担のあり方についての調査研究の実施	
	(2) 拡大生産者責任の徹底の関する具体的な方策についての調査検討の実施	

【基本方向2】事業系ごみの総合的な減量化の推進

基本取組	基本取組の具体的な内容	取組状況
2-1 事業系ごみ処理システムの再構築	(1) 事業系ごみの処理実態等の把握	
	(2) 事業系ごみ適正処理システムの検討・整備	
	(3) 事業系ごみ排出者の届出指導等	
	(4) 適正なごみ処理料金体系の構築	
	(5) 一般廃棄物処理計画における減量化方針等の確立	
2-2 事業系ごみの発生・排出抑制	(1) 事業所内教育の推進	
	(2) ISO14001等環境マネジメントシステムの認証取得促進	
	(3) 自主情報公開制度の推進	
2-3 事業系ごみの再利用の促進	(1) 業種別ガイドラインの作成	
	(2) 事業系ごみの再資源化推進	

【基本方向3】リユース(再使用)の推進

基本取組	基本取組の具体的な内容	取組状況
3-1 不用品の再使用の推進	(1) フリーマーケット等の開催	
	(2) 不用品リサイクル情報の提供及び利用促進の仕組みづくり	
	(3) 不用品再使用のための修理、リフォーム等の推進	
	(4) リサイクルショップ等の活用を進めるための仕組みづくり	
3-2 リターナブル(リユース)容器の普及促進	(1) 既存のリターナブル容器製品のPR等利用促進	
	(2) 新たなリターナブル容器システムの構築	
	(3) リユースカップ・システム等の推進	
	(4) 移動食器洗浄車などリユース食器システムの整備・活用	
	(5) エコイベントの推進	
3-3 リースやレンタルの推進	(1) 民間事業者におけるリース・レンタル等のサービスの拡大	
3-4 モノの長期使用の推進	(1) 製品等の修理・修繕等のサービスの拡大	
	(2) アップグレード(製品の性能・機能の向上)サービスの拡大	

処理施設

【焼却施設】

施設概要	施設名称			
	焼却対象廃棄物			
	施設の種類			
	処理方式			
	炉型式			
	処理能力(t/日)			
	炉数			
	使用開始年度			
	余熱利用の状況			
	総余熱利用量(MJ)			
	発電能力(kW)			
	発電効率(%)			
	総発電量(MWh)			
	灰処理設備の有無(焼却灰)			
	灰処理設備の有無(飛灰)			
	運転管理の体制			
施設の改廃等				
稼動状況	年間処理量(t/年度)			
	資源化量 (t/年度)	生産量		
		搬出量		
	産業廃棄物の搬入の有無			
	一般廃棄物の割合(%)			
	ごみ組成分析結果	紙・布類		
		ビニール、合成樹脂、ゴム、皮革類		
		木、竹、わら類		
		ちゅう介類		
		不燃物類		
		その他		
		単位容積重量(kg/m ³)		
		水分(%)		
		可燃分(%)		
灰分(%)				
	低位発熱量	計算値(kcal/kg)		
		実測値(kcal/kg)		

ごみゼロセミナーの開催

「ごみゼロ事業者・県民セミナー」

～“金沢53ダイエツネットワーク”の活動、“伊勢市レジ袋有料化”の取組を通じて考える、事業者・住民・NPO 団体・行政協働での事業系ごみ減量～

○平成20年2月20日(水) 14:00-16:30 三重県総合文化センター(津市)

○参加者：132名

◇講演「事業系ごみ減量に向けた現状と課題

～金沢53ダイエツネットワークの取組から～

講師：金沢大学経済学部准教授 佐無田 光 氏

◇取組事例発表

「事業者・市民・NPO・行政協働でのレジ袋削減

～人口10万人以上の市で全国初となる、市内全域大型

スーパー全店でのレジ袋一斉有料化はどのように実現したのか。

そして5ヶ月後の今、現場からのレポート～

・行政の視点

伊勢市環境部資源循環課 大野 安道 課長補佐

・事業者の視点

株式会社ぎゅーとら ISO 推進課 高橋 美貴 氏

◇質疑応答



「ごみゼロ県民セミナー」

○平成20年3月1日（土）13:30-16:30 三重県総合文化センター（津市）

○参加者：135名

◇講演

テーマ：「ごみを出さない暮らしのコツ」

講師：漫画家 赤星 たみこ 氏

◇事例発表

- リサイクルパークオープニング以降の行政として、どのような成果があったのか

テーマ：鳥羽リサイクルパークの取り組み

発表者：鳥羽市環境課資源リサイクル係 中村 孝 係長

- NPOとして委託を受け、どのような方法・手続きで計画を策定したのか

テーマ：東員町「町民参画による町ごみ処理基本計画づくり」

発表者：NPO 法人生ごみリサイクル思考の会 代表 川島 浩 氏

◇質疑応答



赤星 たみこ 氏 講演



中村 孝 氏 取組発表



川島 浩 氏 取組発表



質疑応答



風呂敷の包み方実演

平成19年度行政連絡会議の概要

第1回行政連絡会議

議題【ごみゼロプラン推進の取組及び意見交換】

- 県内のごみ処理状況について（平成18年度速報値）
- 平成18年度ごみゼロプラン推進モデル事業について
- 県民しあわせプラン第二次戦略計画（案）について
- 平成19年度ごみゼロプラン推進モデル事業について
- 市町ごみ処理システムの最適化について

※市町職員計：47名

	開催場所	開催日時
四日市農林商工環境事務所	県四日市庁舎1階第11会議室	7月6日(金)14:00~16:00
桑名農政環境事務所	県桑名庁舎附属棟第5会議室	7月10日(火)13:30~15:30
伊賀農林商工環境事務所	県伊賀庁舎4階第5会議室	7月11日(水)13:30~15:30
尾鷲農林水産商工環境事務所 熊野農林商工環境事務所	県熊野保健所2階会議室	7月12日(木)13:30~15:30
津農林水産商工環境事務所	県津庁舎3階入札室	7月17日(火)14:00~16:00
伊勢農林水産商工環境事務所	県伊勢庁舎会議棟3階第5会議室	7月18日(火)13:30~15:45
松阪農林商工環境事務所	県松阪庁舎3階第33会議室	7月26日(木)10:00~12:00

概 要

○各市町からの意見

【有料化について】

- ・有料化を検討する前に、ごみ処理システムの見直しが必要と考えている。
- ・鳥羽市等で有料化を行っているが、市民からの反発は無かったのか。また、有料化によってどのようなごみが減ったのか、データがあれば教えてもらいたい。
- ・有料化に伴って不法投棄の増加が心配である。

【事業系ごみについて】

- ・事業系ごみの分別等の指導により、可燃ごみは減ったが、全体のごみの量としては変わっていない。
- ・事業系ごみの処理料金支払いを月額から、その都度の支払いに変更してからごみの量は減っている。
- ・食品リサイクル法の関係で町に入ってくる事業系のごみが減ってきているような気がする。
- ・金属、紙類などのごみについては、資源化されているのではないか。

【廃棄物会計】

- ・廃棄物会計を活用して、他の自治体と対比することについて懸念している。
- ・廃棄物会計に取り組むことによって、コストばかりを追求していくと困ることとならないのか。分別数を増やせばコストが高くなる。

平成19年度行政連絡会議の概要

第2回行政連絡会議

議題【ごみゼロプラン推進の取組及び意見交換】

- ごみゼロプランの点検・評価について
- ごみゼロレポートについて
- 平成19年度の取組状況について
- 平成20年度予算の概要について
- ごみゼロキャラクターの普及・啓発活動について

※市町職員計：53名

	開催場所	開催日時
伊賀農林商工環境事務所	県伊賀庁舎4階第4会議室	2月13日(水)10:00~12:00
伊勢農林水産商工環境事務所	県伊勢庁舎会議棟1階第3会議室	2月14日(木)10:00~12:00
松阪農林商工環境事務所	県松阪庁舎3階特別会議室	2月21日(木)14:00~16:15
津農林水産商工環境事務所	県津庁舎3階入札室	2月22日(金)10:00~12:00
桑名農政環境事務所	県桑名庁舎3階第1会議室	2月26日(火)10:00~12:00
尾鷲農林水産商工環境事務所 熊野農林商工環境事務所	県尾鷲庁舎行政棟5階大会議室	2月27日(水)14:00~16:00
四日市農林商工環境事務所	県四日市庁舎附属棟1階101会議室	2月29日(金)14:00~16:35

概要

○各市町からの意見

【レジ袋有料化について】

- ・有料化をした市で、市民の方へのどのようなサービスを還元しているのか。
- ・レジ袋の有料化が言われているが、RDFの製造にはカロリーを上げるのにレジ袋などのプラスチック製品が必要と考えるので、有料化が全て正しいとは言って欲しくない。

【家庭ごみの有料化について】

- ・町のごみゼロプランにも掲載しており、今後、検討していく必要があると考えている。
- ・コストの問題もあるが、家庭ごみの有料化と戸別収集の実施をセットでと考えている。

【モデル事業について】

- ・モデル事業の2分の1の補助は有り難いが、残りの2分の1を出す体力(財政)がない。
- ・モデル事業として3事業を考えているが、1市町で複数のモデル事業についての採択は可能か。

【その他】

- ・不適正な分別排出のごみを収集しないことや、区長会への啓発を重点的に実施し、地元で責任を持っていただくことによって、ごみが減った。
- ・廃棄物会計のコスト計算で、収集にあたる作業員の実態を反映させるのは難しいのではないかと。

H19生ごみ堆肥化講座の概要

生ごみ堆肥化講座（市町職員）

テーマ

家庭で簡易にできる生ごみの処理と利用について

可燃ごみの約3割を占める生ごみについて、家庭で簡易にできる生ごみの処理と堆肥化及び堆肥の利用について、市町職員を対象とした堆肥化講座を行い、生ごみ堆肥化の知識・方法を理解することにより、今後の生ごみ処理のあり方の検討及び生ごみ堆肥化システムとしての市町単位での展開に向けたきっかけづくりとする。

概要

市町職員生ごみ堆肥化講座

【生ごみの堆肥化について】

- 衣装ケース・スタンドバッグを利用した一次・二次処理の基本的な考え方
 - ・堆肥化のメカニズムについて
 - ・家庭で行う一次・二次処理について
- 衣装ケースの加工、床材づくり及び二次処理の実演及び実習
大台町の二次処理場見学及び取り組み紹介

日 時	平成19年11月26日（月）13：00～16：00
場 所	グリーンプラザおおだい 2階会議室
参加者	市町職員4名（3市町） 県職員3名

講座



大台町の二次処理の取り組み紹介及び現場見学






実習



平成19年度地域ごみゼロ推進交流会の開催概要

▶▶ 松阪農林商工環境事務所 (第1回)




日時	平成19年5月27日(日) 10:00~15:00
場所	香肌奥伊勢資源化プラザ
参加者	40名
内容	<p>めざせごみゼロ!! 松阪地区交流会</p> <p>くらしの中の風呂敷活用講座(2回開催) テーマ: ふろしきバッグでお出かけ 講師: 東村 佳子氏(株東村呉服店勤務)</p>   <p>生ごみ堆肥による野菜栽培の紹介 七日市環境美化推進協議会会員</p> 

▶▶ 松阪農林商工環境事務所 (第2回)



日 時	平成19年7月26日(日) 13:00~15:00
場 所	三重県松阪庁舎3階第33会議室
参加者	27名
内 容	<p>めざせごみゼロ!! 松阪地区交流会</p> <p>市町・県職員向け風呂敷活用講座 テーマ：ふろしきバッグでお出かけ 講 師：東村 佳子氏(株東村呉服店勤務)</p> <p>意見交換</p>
	  

▶伊賀農林商工環境事務所 (第 1回)

日 時	平成19年8月23日(木) 10:00~17:00
場 所	三重県伊賀庁舎(エコクッキング) さくらリサイクルセンター、三重中央開発株式会社(施設見学)
参加者	27名

内 容	ごみのゆくえ探検隊 エコクッキング 講 師：三重県環境学習情報センター環境学習推進員 辻本 晴美子 氏 施設見学 さくらリサイクルセンター 説明者：さくらリサイクルセンター 福森 靖 氏 三重中央開発株式会社 説明者：三重家中央開発株式会社営業部長 大仲 一正 氏		
	エコクッキング	さくらリサイクルセンター見学	三重中央開発株式会社見学
			

▶▶伊賀農林商工環境事務所 (第2回)

日 時	平成19年10月6日(土) 13:30~16:00		
場 所	名張市役所大会議室		
参加者	86名		
内 容	<p>ごみゼロ交流会 in伊賀ーストップ! レジ袋~ マイバッグ持参シンポジウムー</p> <p>講演 テーマ:「マイバッグ2000万計画」推進 ー地域社会との連携とレジ袋排出抑制ー」</p> <p>講 師:イオン(株)グループ環境・社会貢献担当 上山 静一 氏</p> <p>パネルディスカッション テーマ:レジ袋削減をとおして考える伊賀のごみゼロ</p> <p>コーディネーター:伊賀環境問題研究会 パネリスト:イオン(株)グループ環境・社会貢献担当 立田 彰子 氏 伊勢市商店街連合会 上山 静一 氏 名張市長 天野 千秋 氏 亀井 利克 氏</p> <p>意見交換会</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>		

伊勢農林水産商工環境事務所 (第1回)

日時	平成19年11月18日(日) 10:00~12:00
場所	三重県伊勢庁舎会議棟1階第3会議室
参加者	30名

「レジ袋削減キャンペーン運動の取り組み」 ～きれいな伊勢志摩づくり連絡会議～

講演

テーマ：レジ袋削減キャンペーン運動の取り組みについて

講師：伊勢市環境部資源循環課長 阪本 保夫氏

取組発表

テーマ：レジ袋削減キャンペーン運動を実施して

発表者：(株)ぎゅーとらISO推進課 高橋 美貴氏

意見交換会

内容



▶伊勢農林水産商工環境事務所 (第2回)

日 時	平成20年1月26日(土) 10:00~15:00
場 所	伊勢商工会議所 第3会議室・大ホール
参加者	交流会：44名 講演会：80名
内 容	<p>伊勢志摩地域ごみゼロ推進交流会・講演会</p> <p>交流会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践報告 <p>テーマ：「レジ袋大幅削減・マイバッグ持参運動」</p> <p>報告者：伊勢市環境部資源循環課 課長補佐 大野 安道 氏</p> <p>テーマ：「住民による鳥羽リサイクルパークの運営」</p> <p>報告者：NPOとばりサイクルネットワーク理事長 山西 元 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見交換会 <p>講演会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ：「ごみから地球を考える - 環境問題の原点は「ごみ問題」です - 」 <p>講 師：環境省環境カウンセラー、名古屋学芸大学客員教授 石澤 清史 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質疑応答



▶ 津農林水産商工環境事務所

日 時	平成20年3月1日(土) 13:30~16:30		
場 所	津市西部クリーンセンター(市民エコ活動センター)		
参加者	38名		
内 容	津地域ごみゼロ交流会		
	講演 テーマ：廃食油のBDF化について 講 師：三重大学大学院准教授 丸山 直樹氏		
	テーマ：廃食油のBDF化事業計画について 講 師：津市環境事業課課長 稲垣 巧氏		
	フリートーク		
			
	三重大学大学院丸山准教授	津市環境事業課稲垣課長	フリートーク

▶ 桑名農政環境事務所

日 時	平成20年3月2日(日) 9:00~17:00
場 所	(有)酵素の里(収穫体験)(有)三功第2リサイクルセンター・アピタ松阪三雲店(施設見学)
参加者	31名

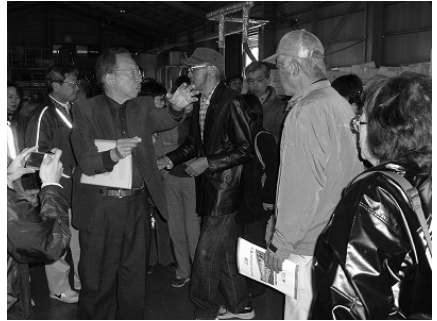
桑員地域ごみゼロ交流会2008
 施設見学
 (有)酵素の里
 説明者：(有)三功取締役常務統括
 中西 あかね 氏

(有)三功第2リサイクルセンター
 説明者：(有)三功顧問
 野田 武義 氏

アピタ松阪三雲店
 説明者：アピタ松阪三雲店業務担当課長
 高木 隆行 氏



(有)酵素の里見学 収穫体験



(有)三功第2リサイクルセンター見学

アピタ松阪三雲店の取組

内 容

尾鷲農林水産商工環境事務所

日 時	平成20年3月9日(日) 8:30~18:00
場 所	三重県環境学習情報センター
参加者	29名

紀北地域ごみゼロ推進交流会

施設説明及び見学

三重県環境学習情報センター 畑中指導員

講義

テーマ：資源循環クイズ

講 師：三重県環境学習情報センター 畑中指導員

テーマ：買い物ゲーム体験

三重県環境学習情報センター 吉田指導員

意見交換

テーマ：「ごみを減らすためにできる取組」



環境学習センター見学



資源循環クイズ・買い物体験ゲーム



意見交換

内 容

熊野農林商工環境事務所

日時	平成20年3月16日(日) 13:00~16:30
場所	三重県熊野庁舎5階大会議室
参加者	21名

熊野地域ごみゼロ推進交流会 ～布ぞうりをつくろう！古布でリサイクル～

事例発表

テーマ：ごみ減量化の取組

発表者：東紀州地域資源循環型社会研究会（エコフレンド）
三角田 慎二氏

布ぞうりづくり体験

講師：森井 秀美氏



エコフレンドの取組



布ぞうりづくり



内容

▶▶ 四日市農林商工環境事務所

日 時	平成20年3月28日(金) 13:30~16:15
場 所	菰野町役場 諸岡建設(株)(施設見学)
参加者	定員: 25名
内 容	北勢地域ごみゼロ交流会(予定) 講 演 テーマ:「廃食用油リサイクルについて」 ~天ぷら油で地球を救おう~ 講 師: 諸岡建設(株)エネルギー事業部 岡田 章宏氏 施設見学 諸岡建設(株)廃食用油リサイクルセンター 説明者: 諸岡建設(株)エネルギー事業部 岡田 章宏氏 意見交換会

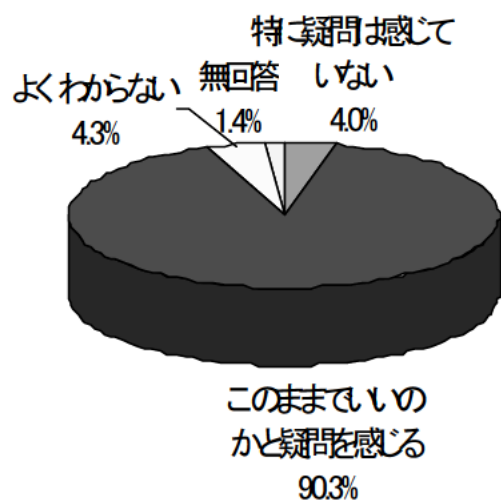
「ごみゼロ社会」をめざす県民意識調査結果の概要

調査目的	県民のごみ減量化等に関する意識・行動を把握し、平成16年度に実施した調査結果と比較するとともに、ごみゼロプランに基づく取組を推進するための基礎資料とする
調査対象	地域特性などを考慮して選んだ県内15市町から500名ずつ、合計7,500名を選挙人名簿から無作為抽出
調査期間	平成19年9月10日～10月3日 (平成16年9月9日～9月24日)
回収率	49.7% (51.6%)

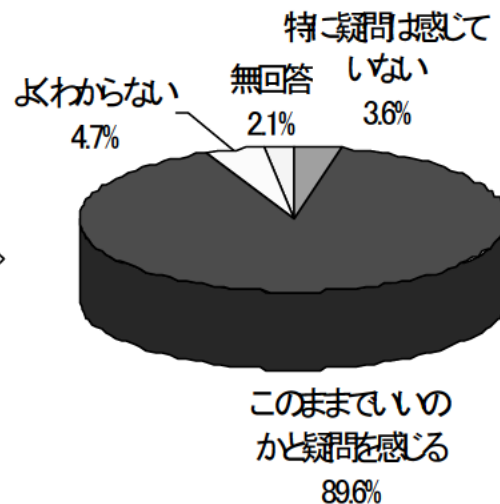
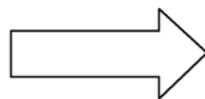
※()は平成16年度に実施した「ごみゼロ社会」をめざす県民意識調査

1. 使い捨て社会に対する疑問

使い捨て商品が身の回りにあふれ、その結果として
ごみが大量に捨てられる現代の社会を、あなたはどのように感じていますか。



H16県民意識調査



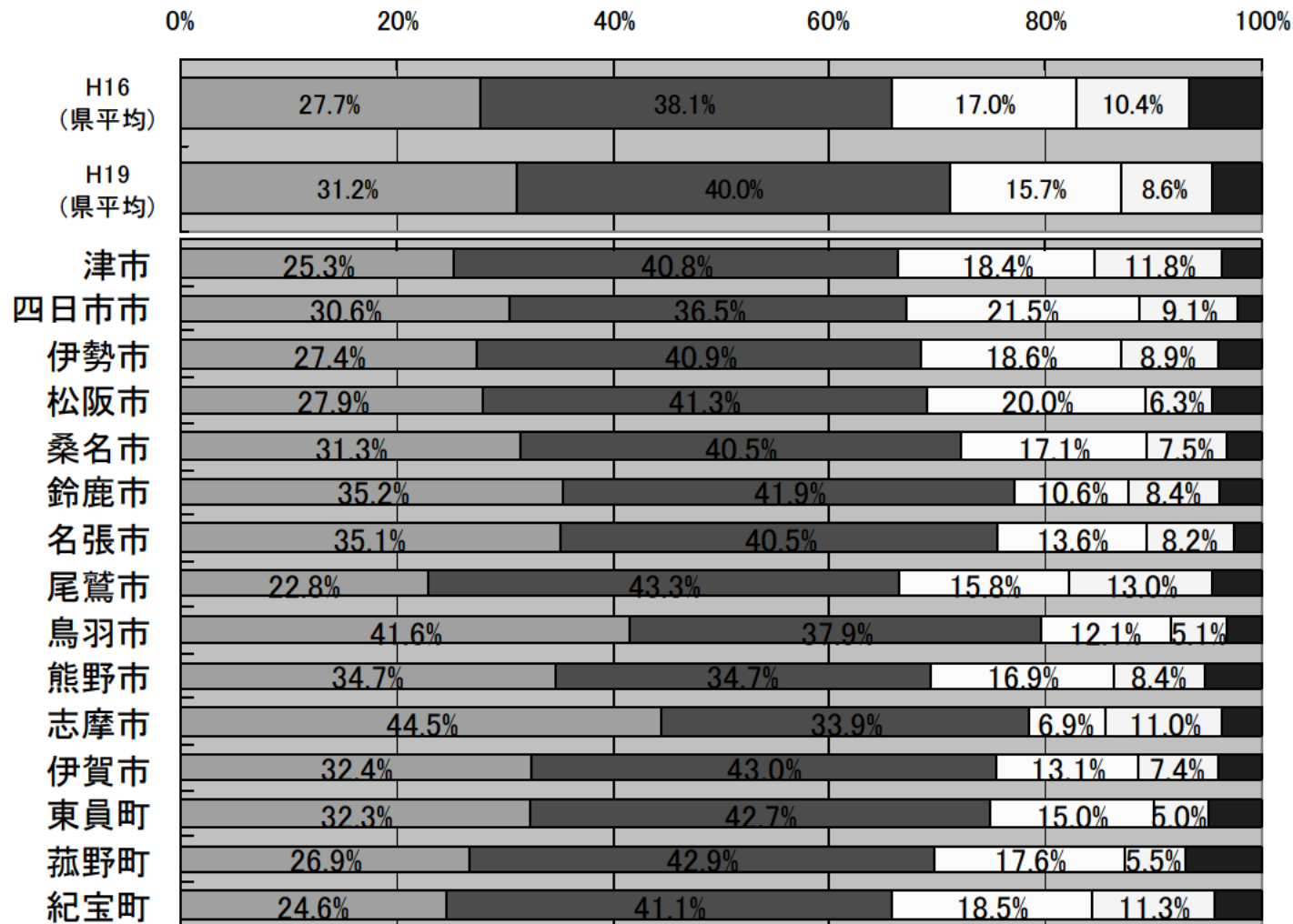
H19県民意識調査

2. 多様な主体の参画・協働に関する数値目標

指標名	2004年度	2007年度		短期目標 (2010)	中期目標 (2015)	数値目標 (2025)
			2004年度比			
ものを大切に長く使おうとする県民の率	58.2%	58.3%	+0.1%	80%	90%	100%
環境に配慮した消費行動をとる県民の率	39.4%	40.2%	+0.8%	60%	90%	100%
食べ物を粗末にしないよう心がけている県民の率	38.5%	40.6%	+2.1%	60%	90%	100%
ごみゼロ社会実現プランの認知率	—	45.6%		90%	100%	100%

3. 家庭ごみ有料化

出したごみの量に応じて、多く出した者が多く負担する
ごみの有料化についてどう思いますか

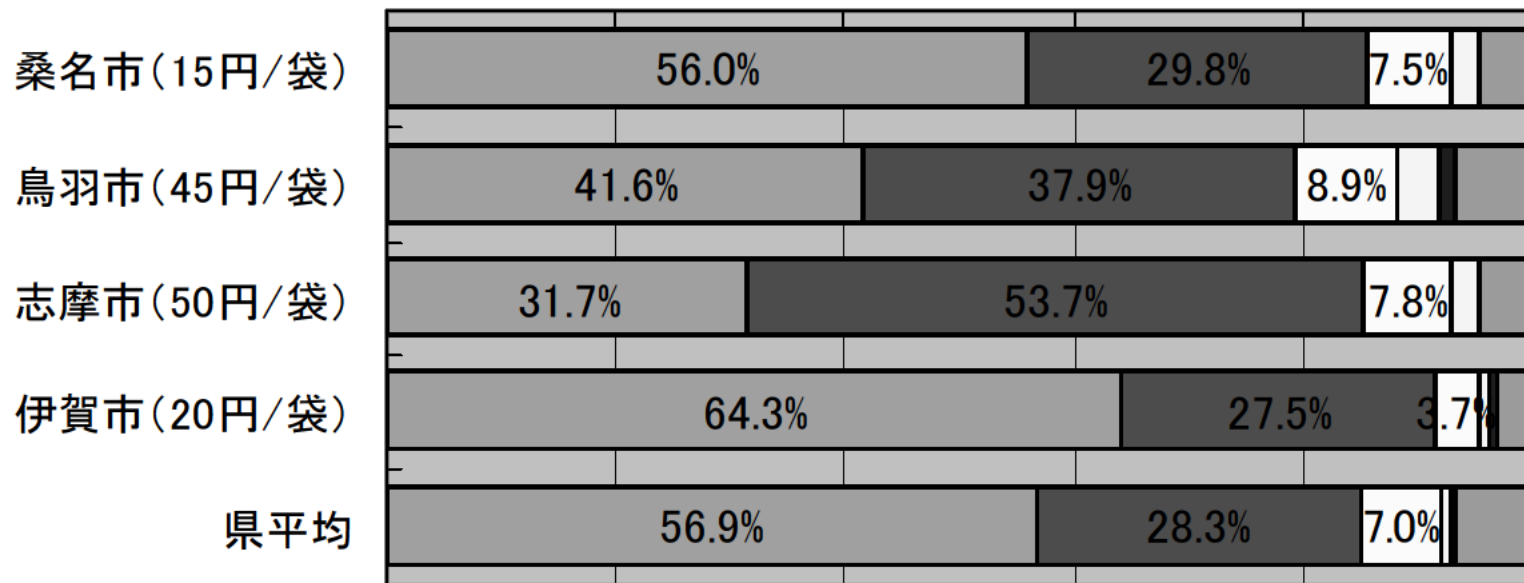


■ 賛成 ■ どちらかという賛成 □ どちらかという反対 □ 反対 ■ 無回答

3. 家庭ごみ有料化

有料化する場合、その料金として
いくらまでなら受け入れられますか

0% 20% 40% 60% 80% 100%

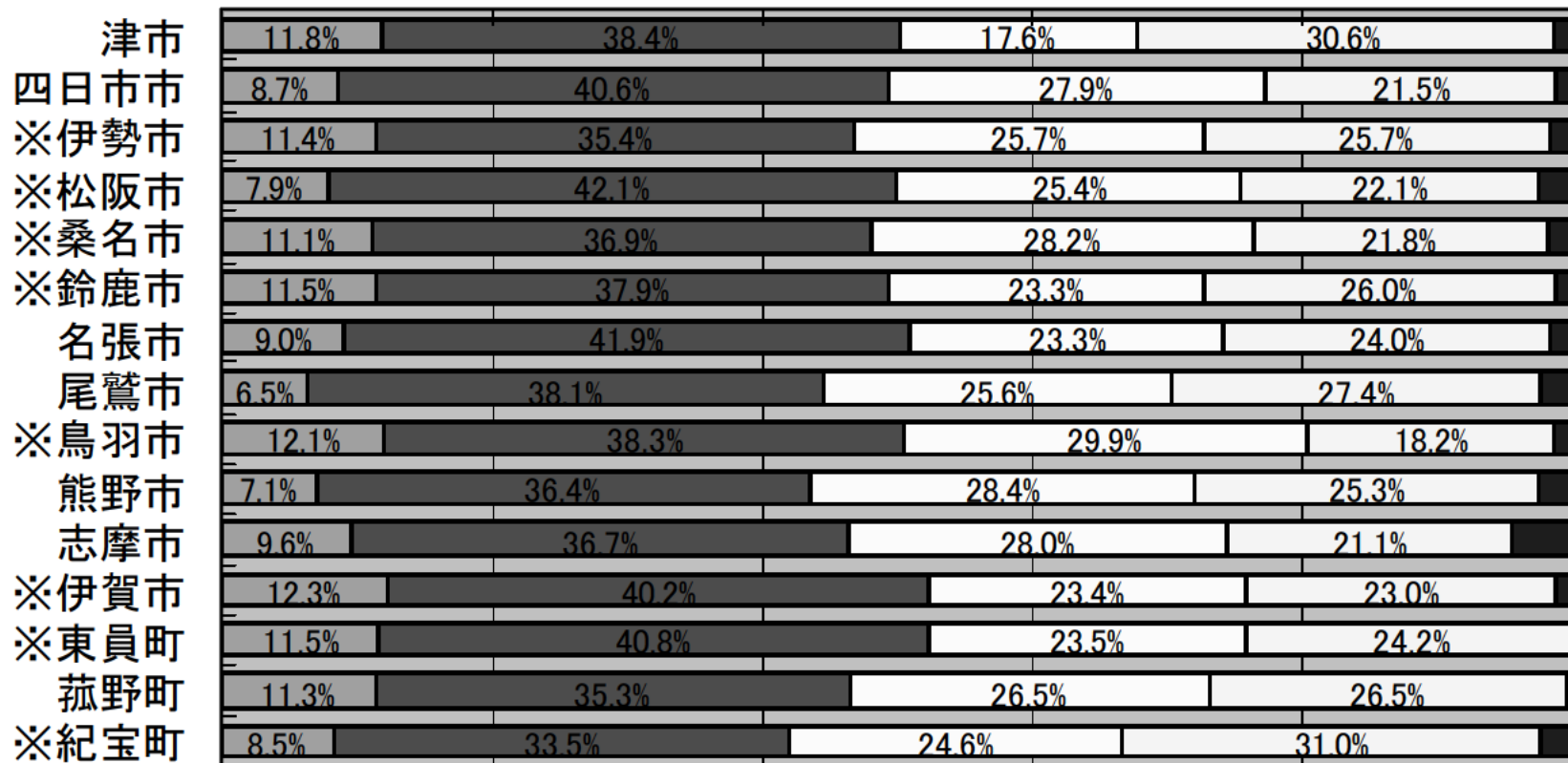


- ごみ袋大(45リットル)が1袋10円
- ごみ袋大が1袋50円程度
- ごみ袋大が1袋100円程度
- ごみ袋大が1袋200円程度
- それ以上
- 無回答

4. 生ごみ堆肥化

使い切れなかったり賞味期限が切れたために
食材を捨ててしまうことはありますか

0% 20% 40% 60% 80% 100%



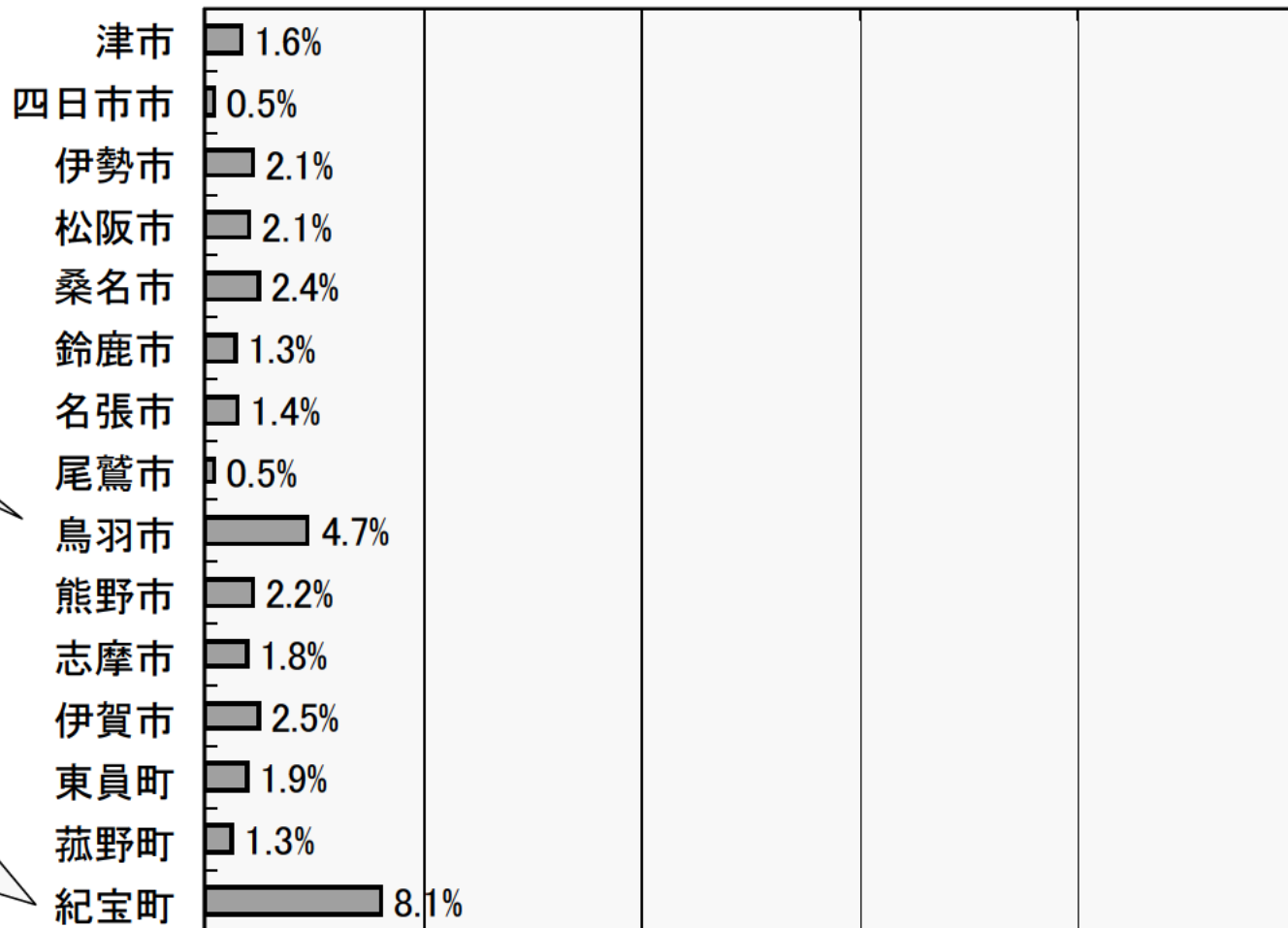
よくある
 たまにある
 あまりない
 ほとんどない
 無回答

※生ごみ堆肥化についてNPO等団体へ支援を行っている市町

4. 生ごみ堆肥化

市町や団体で取り組んでいる生ごみ堆肥化に参加している

0% 10% 20% 30% 40% 50%



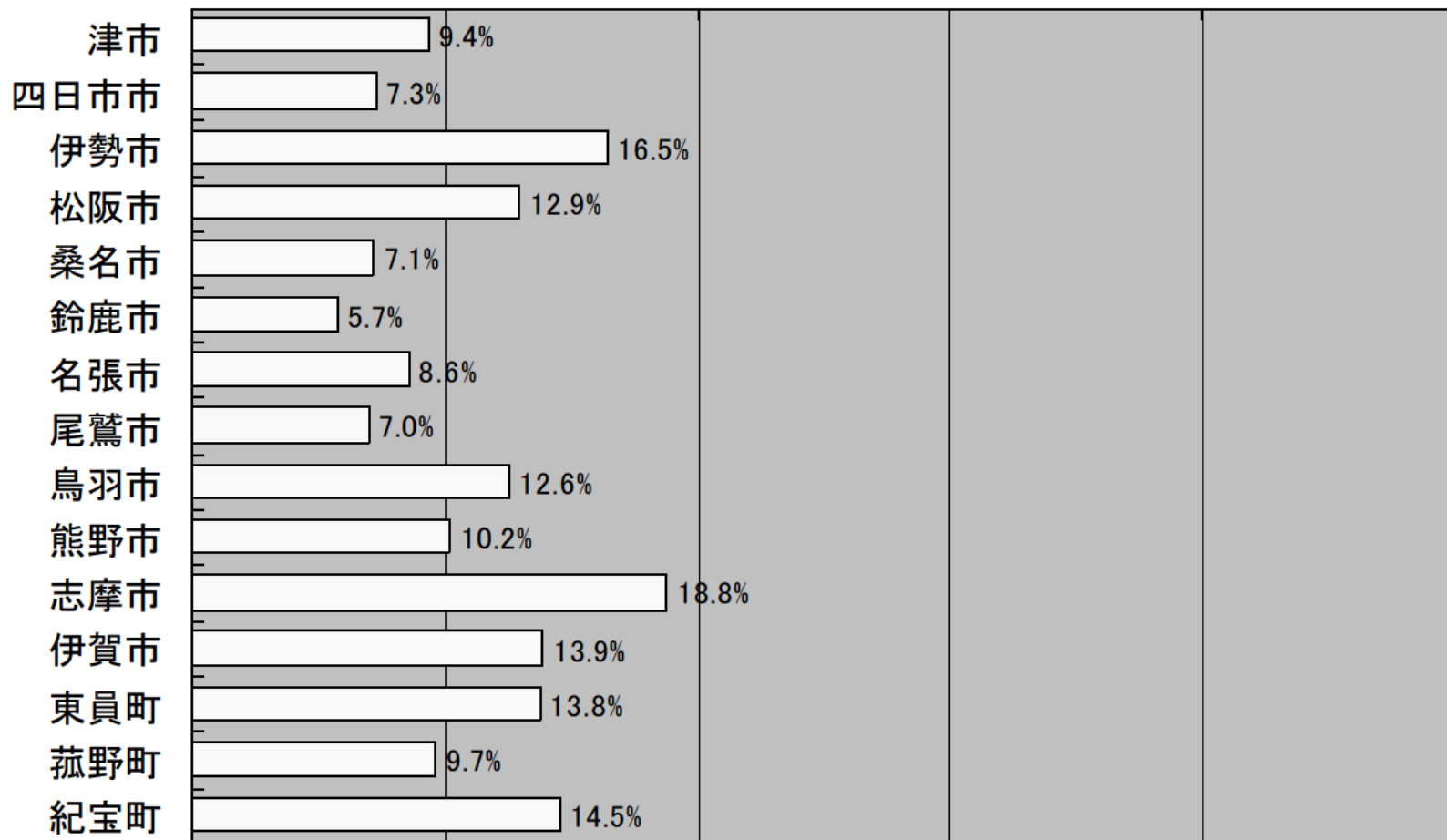
リサイクルパーク
堆肥化处理
現在約300世帯
参加

生ごみ堆肥化
実証試験事業
(平成17年度
モデル事業)
現在139世帯
参加

4. 生ごみ堆肥化

台所ごみを、市町の助成を受けて購入した
堆肥化容器や生ごみ処理機で処理している

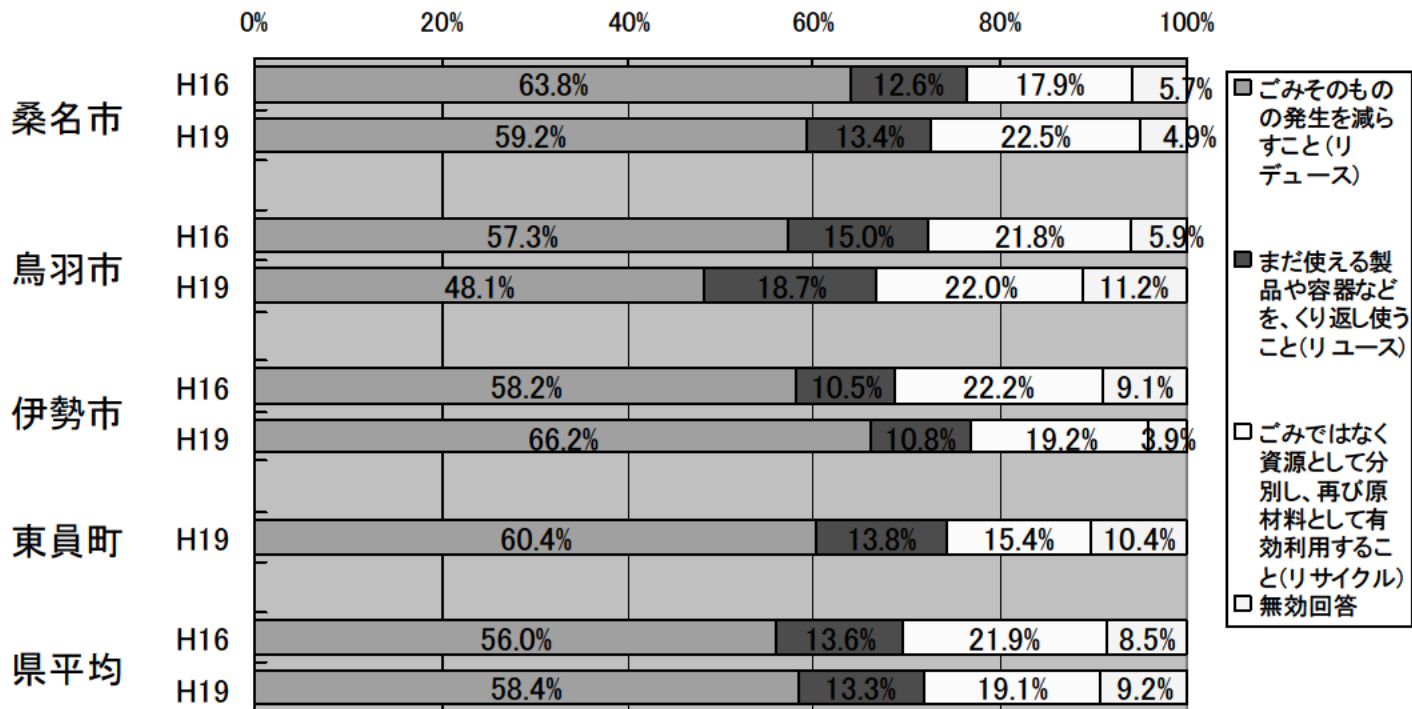
0% 10% 20% 30% 40% 50%



5. 資源ごみリサイクル拠点施設

市町名	施設名	設置時期
桑名市	桑名市リサイクル推進施設「クルクル工房」	H13.3
鳥羽市	鳥羽市リサイクル活動拠点施設「リサイクルパーク」	H18.3
伊勢市	資源回収ステーション整備	H17～
東員町	資源ごみストックヤード整備	H17～

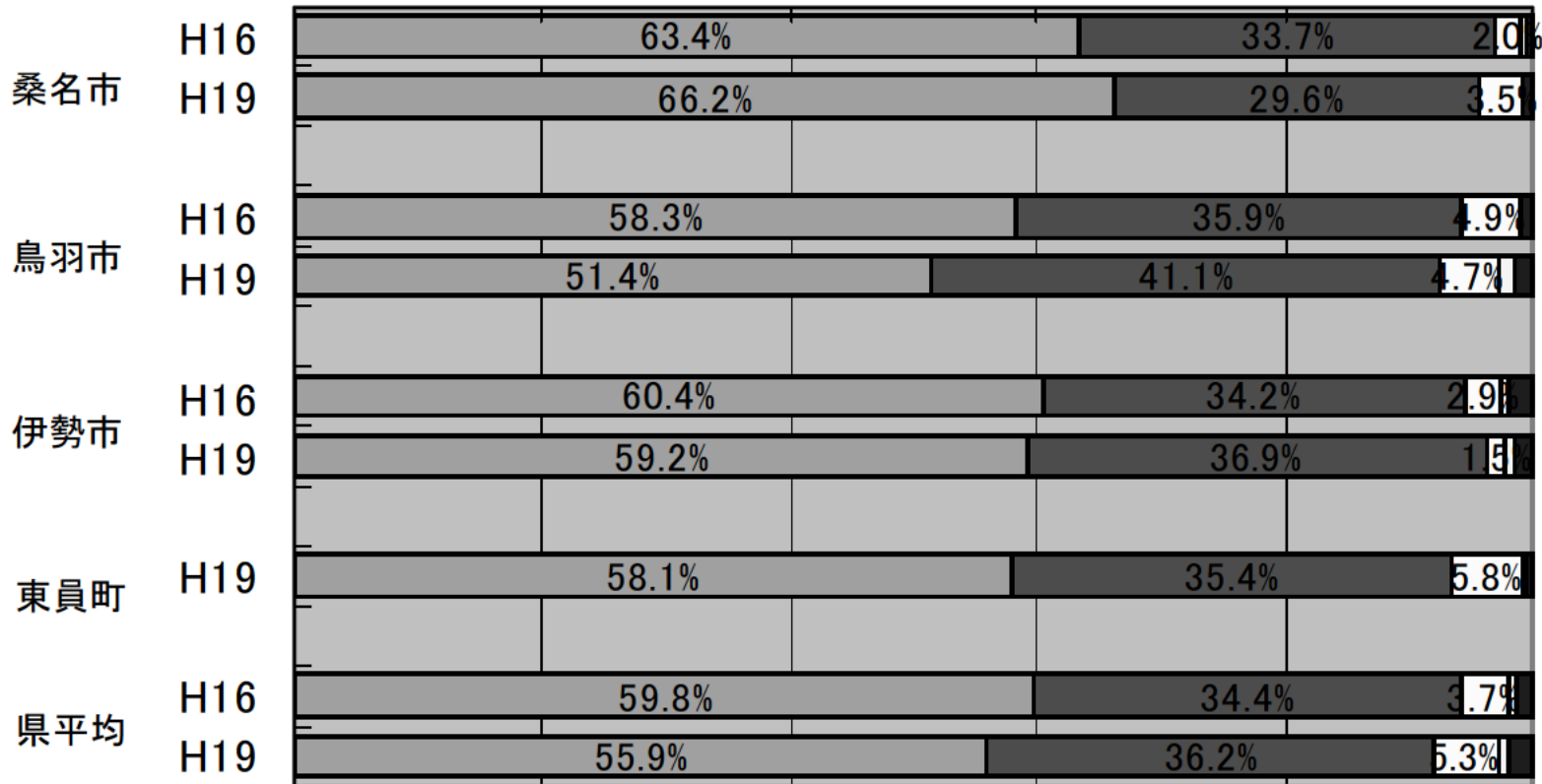
ごみを減らす取り組みの中で
どれが最も大切だと思いますか



5. 資源ごみリサイクル拠点施設

ごみは手間やコストをかけてでも、
できるだけ資源として有効利用すべきだと思いますか

0% 20% 40% 60% 80% 100%

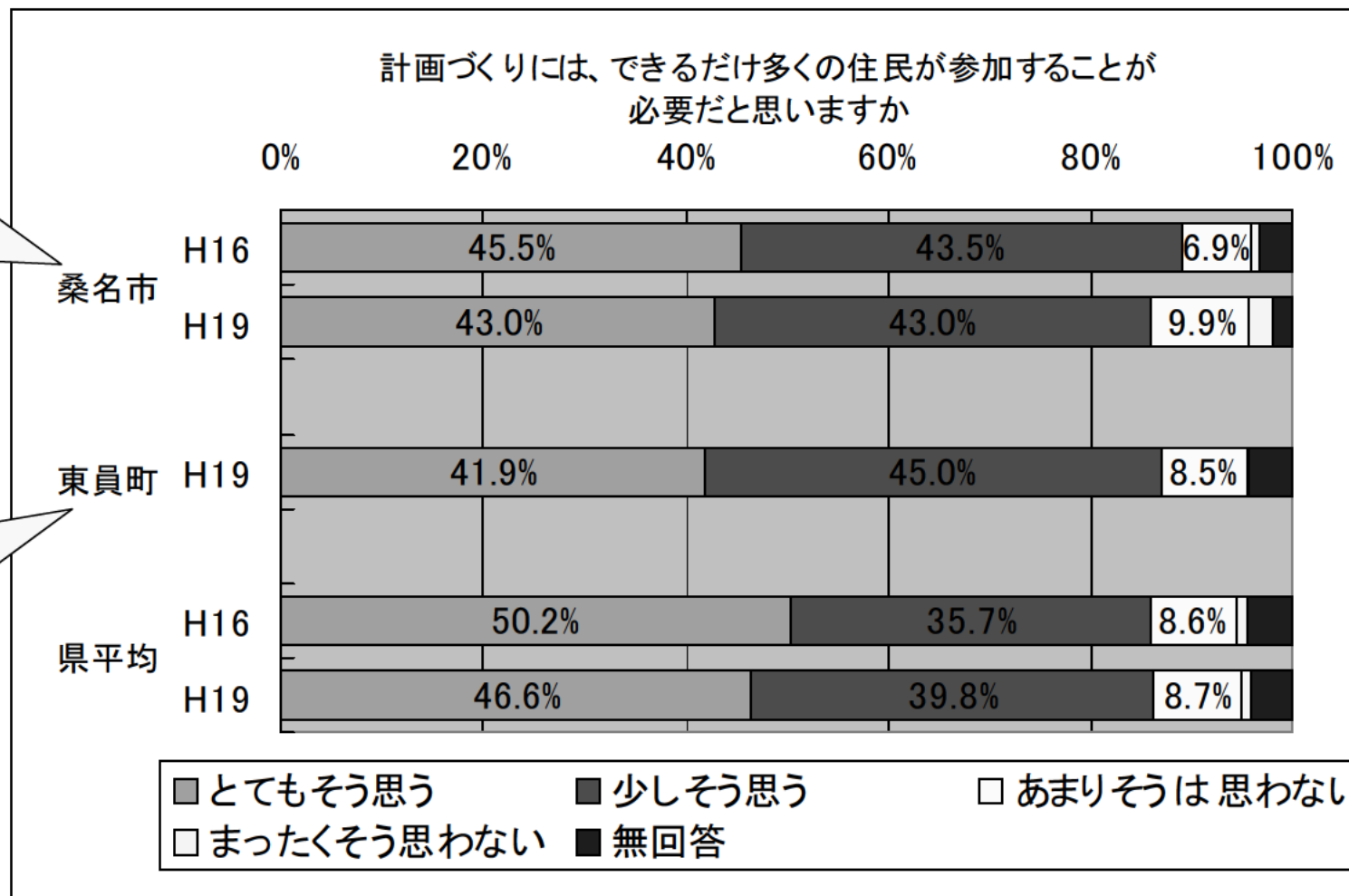


とてもそう思う
 少しそう思う
 あまりそうは思わない
 まったくそうは思わない
 無回答

6. 住民参画によるごみ処理基本計画づくり

「市民参画による
ごみ処理基本計画
づくり」(平成17年
度モデル事業)

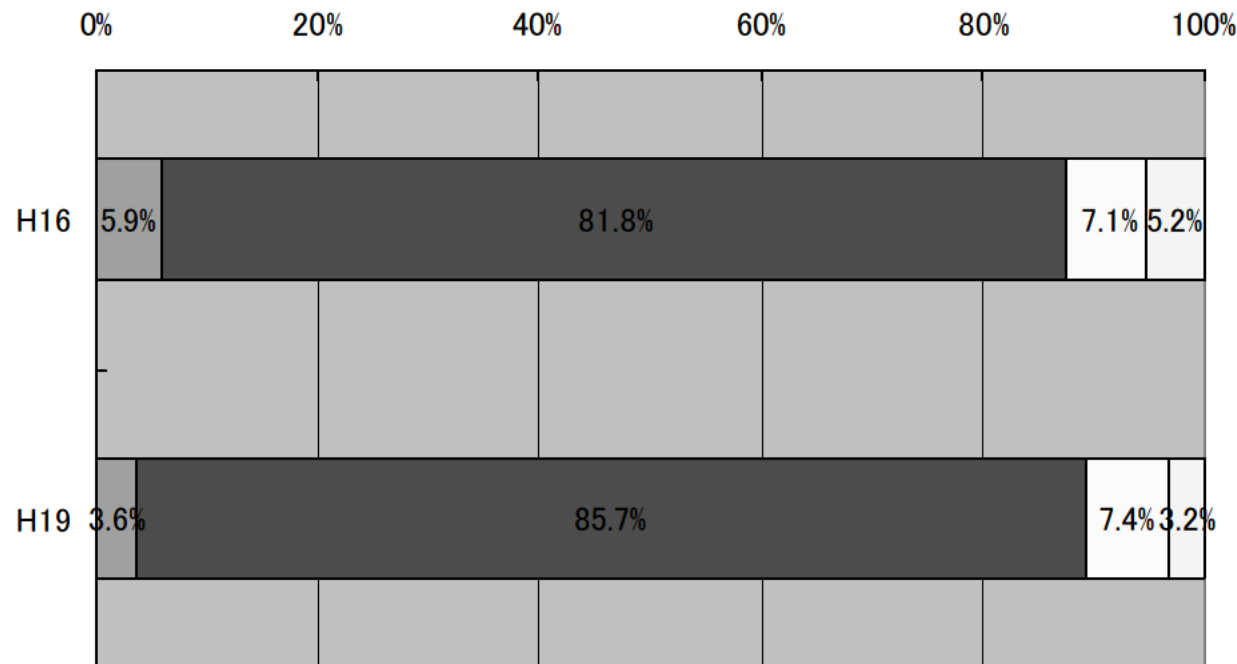
「町民参画による
ごみ処理基本計画
づくり」(平成18年
度モデル事業)



7. レジ袋有料化

市町名	取組内容
伊勢市	マイバッグ作成・全戸配布(H13.12) マイバッグ推進キャンペーン(協力店275店舗)(H14.3~5) 「レジ袋削減(有料化の導入)検討事業」(平成19年度モデル事業) レジ袋有料化スタート(7事業者・21店舗)(H19.9.21)
桑名市・いなべ市 東員町・木曾岬町	桑名市エコバッグ持参推進運動(H13.3) 桑員マイバッグ運動(H15.7)

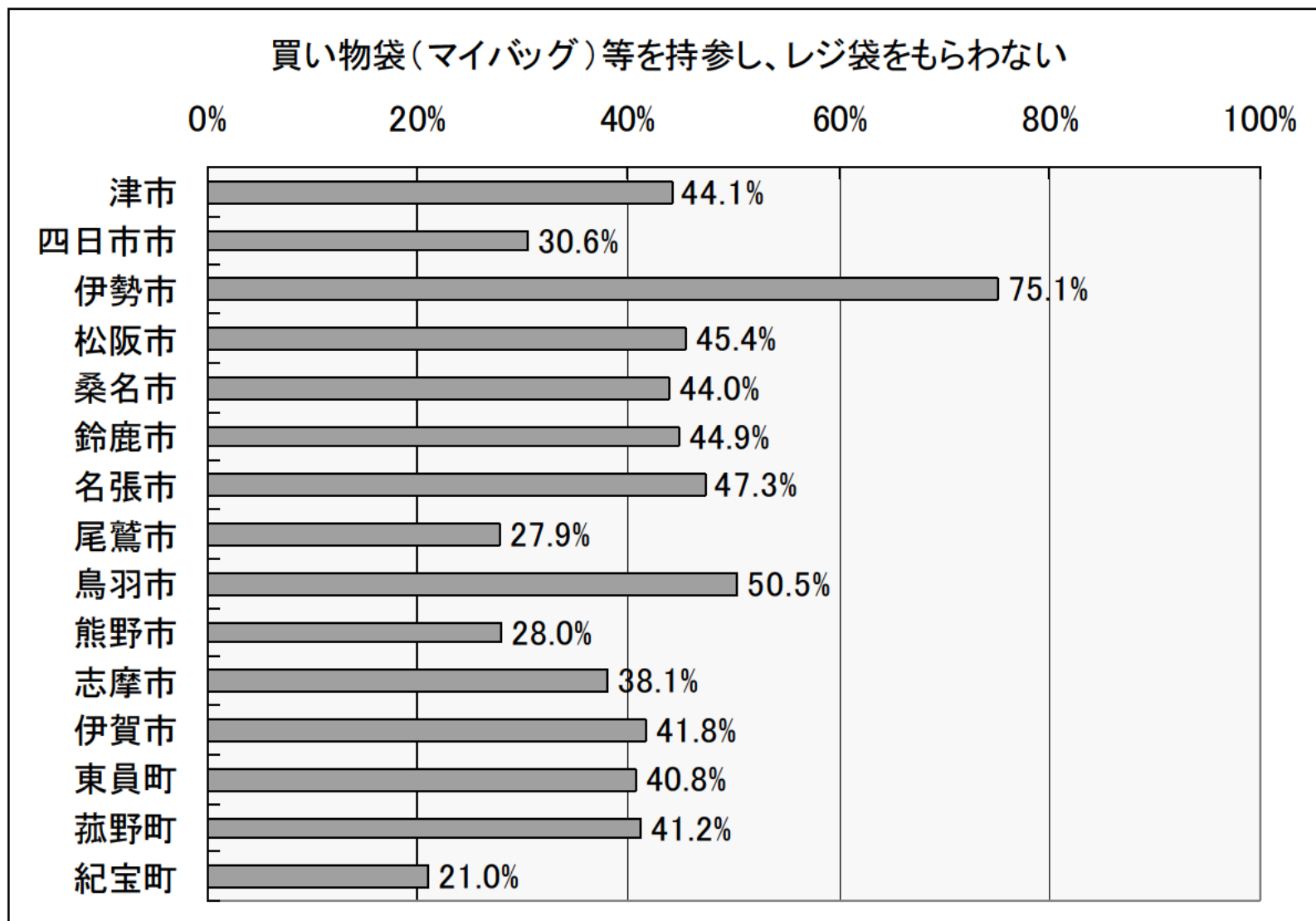
仮に、いつも買い物をするお店で、「レジ袋は1枚10円です」と言われたとします。
次回の買い物から、あなたの行動はどう変わりますか



- 少しくらいお店が遠くても、ただでレジ袋がもらえる別のお店に足を運ぶと思う
- 少しくらいめんどくでも、買い物袋(マイバッグ)を持参するなどできるだけレジ袋を買わなくて済む工夫をして、同じお店で買い物をすると思う
- 1枚10円くらいならレジ袋を買って、これまでのお店で買い物をする
- 無回答

7. レジ袋有料化

Q.あなたのご家庭でやっていることはどれですか。

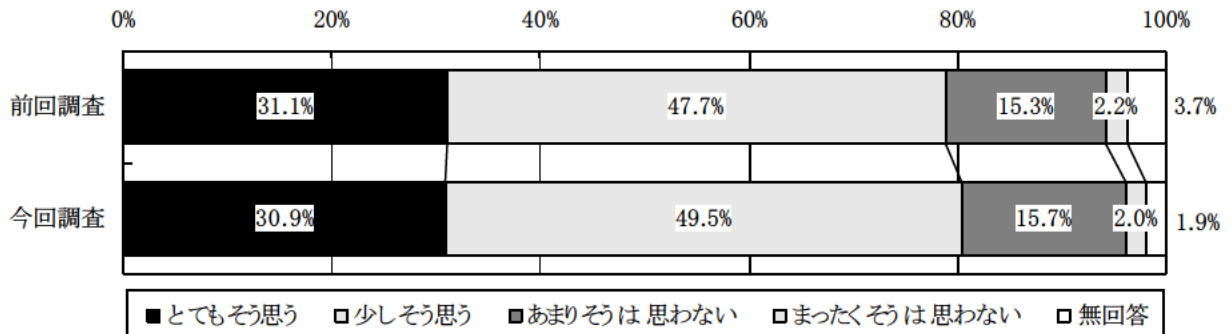


参考資料 「ごみゼロ社会」をめざす県民意識調査結果（H16 調査との比較）

◎ 暮らしの中での関心ごとや考えられる行動についてお聞きします。

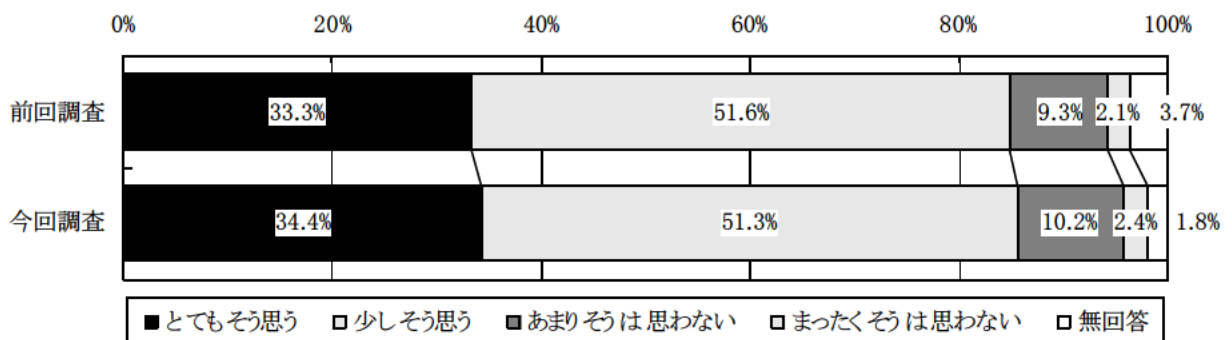
問1 次のそれぞれの考えについてあなたはどの程度あてはまりますか？（○は1つずつ）

(1) 家の中を見回してみると、あまり必要ないものがたくさんあると思う



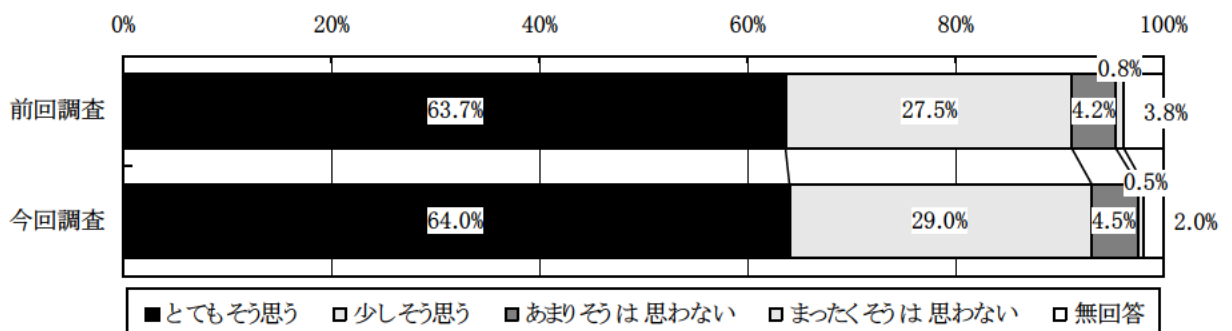
- ・ 「暮らしの中に不要物が多いか」という問いについて、前回調査との比較で見ると、「とてもそう思う」はほとんど変化がない。「少しそう思う」がやや増加しているため、両方を合わせた割合は78.8%から80.4%へと1.6ポイントの増加となっている。

(2) ものを捨てる時、つい「もったいない」と思ってしまう



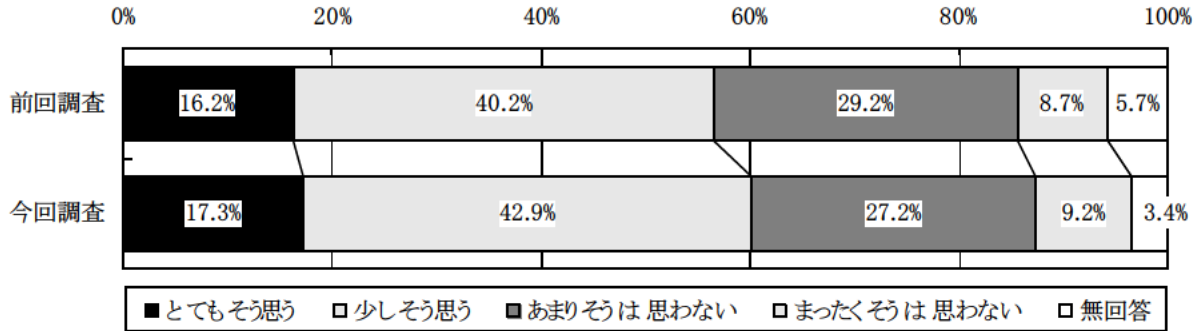
- ・ 「ものを捨てるときに『もったいない』と思うか」という問いについて、前回調査との比較で見ると、「とてもそう思う」が1.1ポイントの増加となっている。傾向としては大きな変化はない。

(3) 商品についている容器や包装材は、もっと少なくていいと思う



- ・ 商品の過剰包装について、前回調査との比較で見ると、「とてもそう思う」はほとんど変化がない。「少しそう思う」がやや増加しているため、両方を合わせた割合は91.2%から93.0%へと1.8%ポイントの増加となっている。

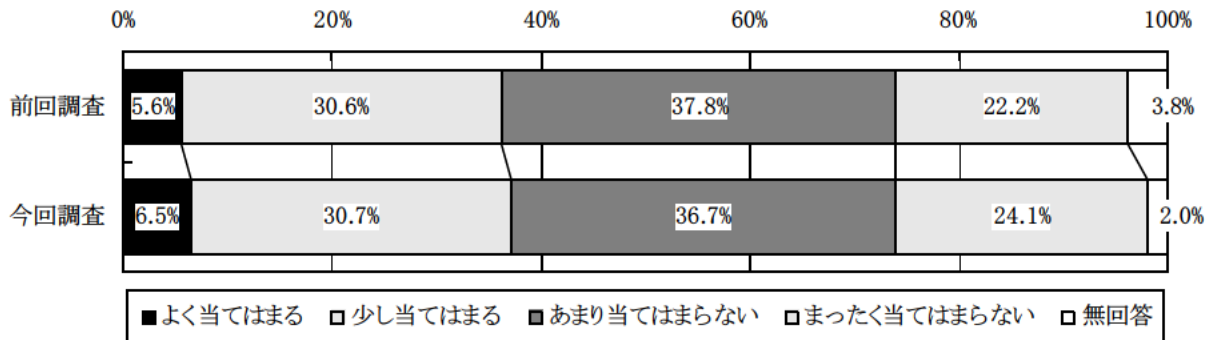
(4) レンタル製品など多くの人が使いまわすものでも、特に抵抗感はない



・ 「多くの人が使いまわすものに抵抗感はないか」という問いについて、前回調査との比較で見ると、「とてもそう思う」、「少しそう思う」のどちらもやや増加傾向にあり、両方を合わせた割合は、56.4%から 60.2%へと 3.8 ポイントの増加となっている。

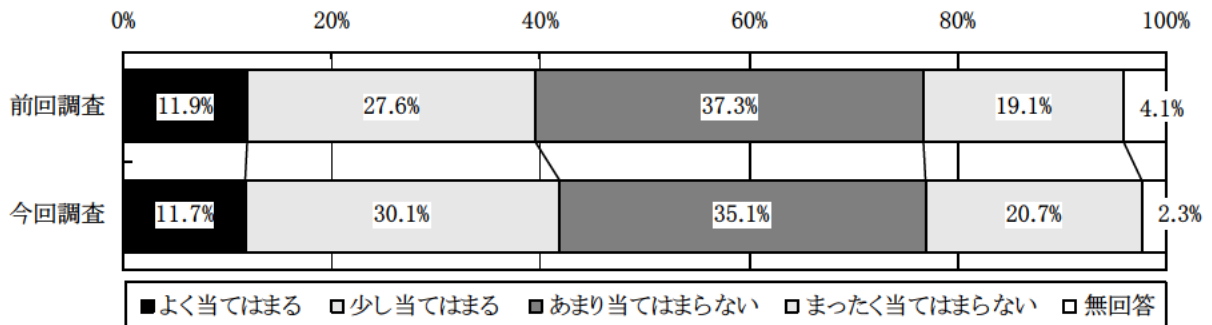
問2 次のそれぞれの場合についてあなたはどの程度あてはまりますか？(○は1つずつ)

(1) 特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくともつい買ってしまふ



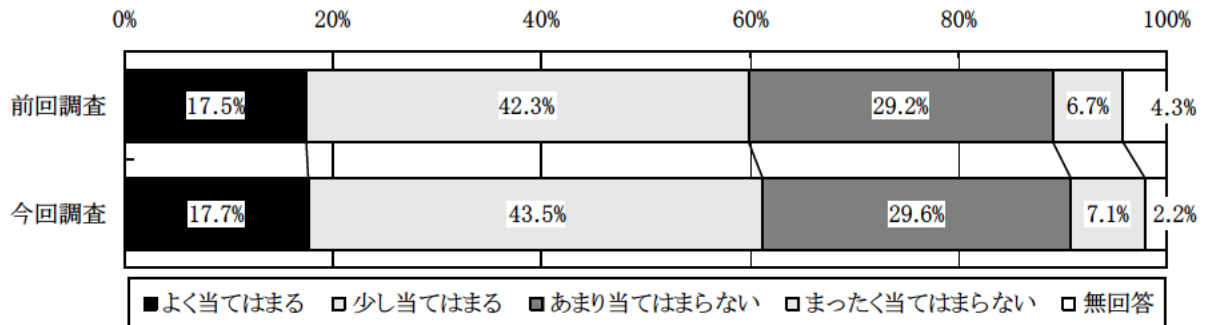
・ 特価品や新商品の衝動買いについて、前回調査との比較で見ると、「よく当てはまる」が0.9ポイントと微増である。これに対して、「まったく当てはまらない」は1.9ポイントの増加となっている。

(2) 買って何年もしない家電製品であっても、壊れたら修理するより買い替える



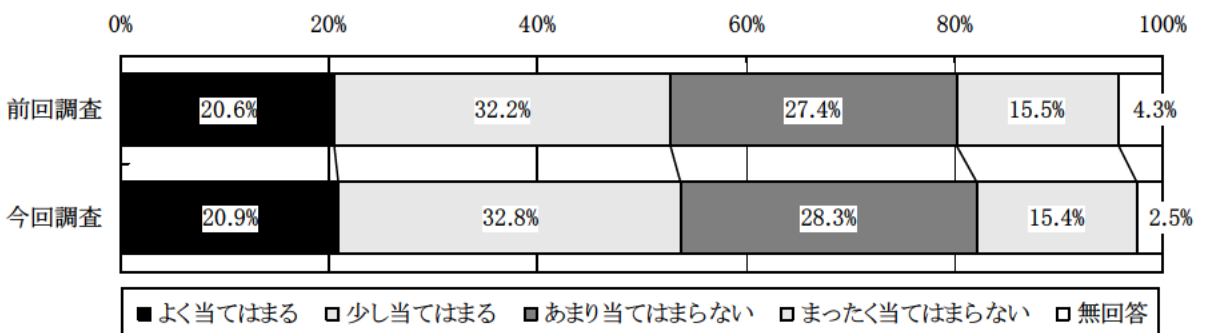
・ 修理より買い替え志向について、前回調査との比較で見ると、「よく当てはまる」はほとんど変化がない。「少し当てはまる」がやや増加しているため、両方を合わせた割合は 39.5%から 41.8%へと 2.3 ポイントの増加となっている。

(3)お店では、環境やごみのことは考えずに商品を選ぶ



・「環境やごみのことを考えずに商品を選ぶか」という問いについて、前回調査との比較で見ると、「よく当てはまる」はほとんど変化がない。「少し当てはまる」がやや増加しているため、両方を合わせた割合は、59.8%から 61.2%へと1.4ポイントの増加となっている。

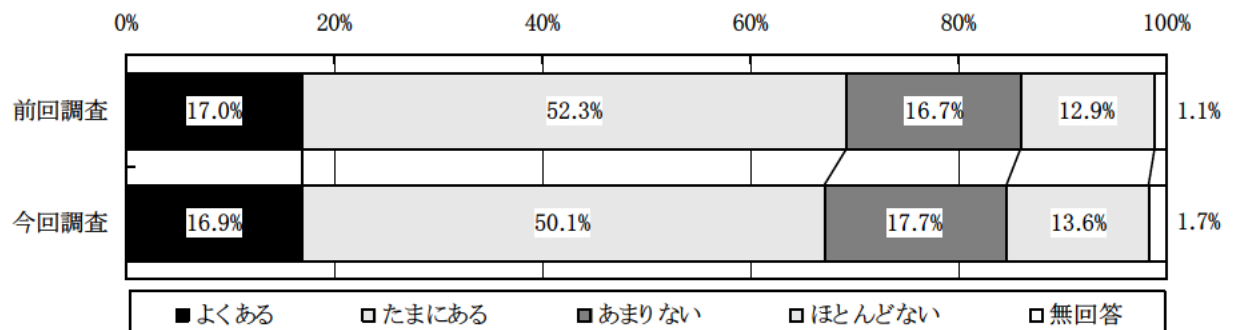
(4)一時期しか使わない商品であってもレンタル品などは使わず新品を購入する



・ レンタル品等より新品という志向について、前回調査との比較で見ると、「よく当てはまる」、「少し当てはまる」を合わせた割合は、52.8%から 53.7%へと0.9ポイントの微増となっている。

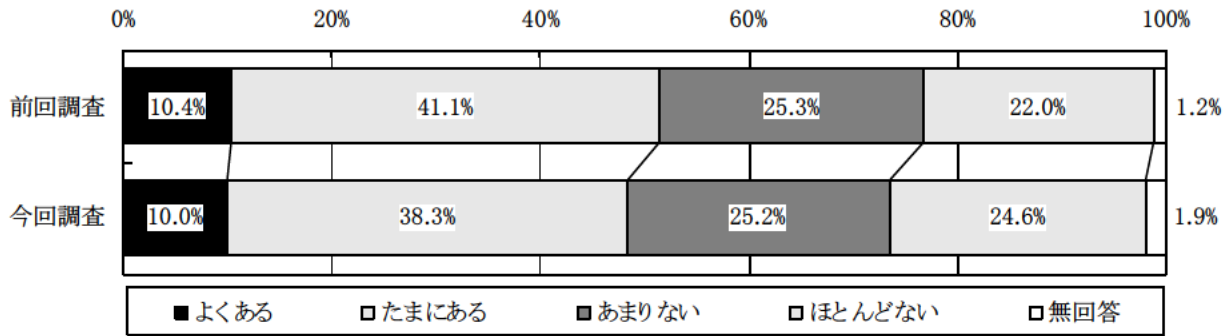
問3 食べ物のごみについてお聞きします。(〇は1つずつ)

(1)使い切れなかったり賞味期限が切れたために食材を捨ててしまうことはありますか？



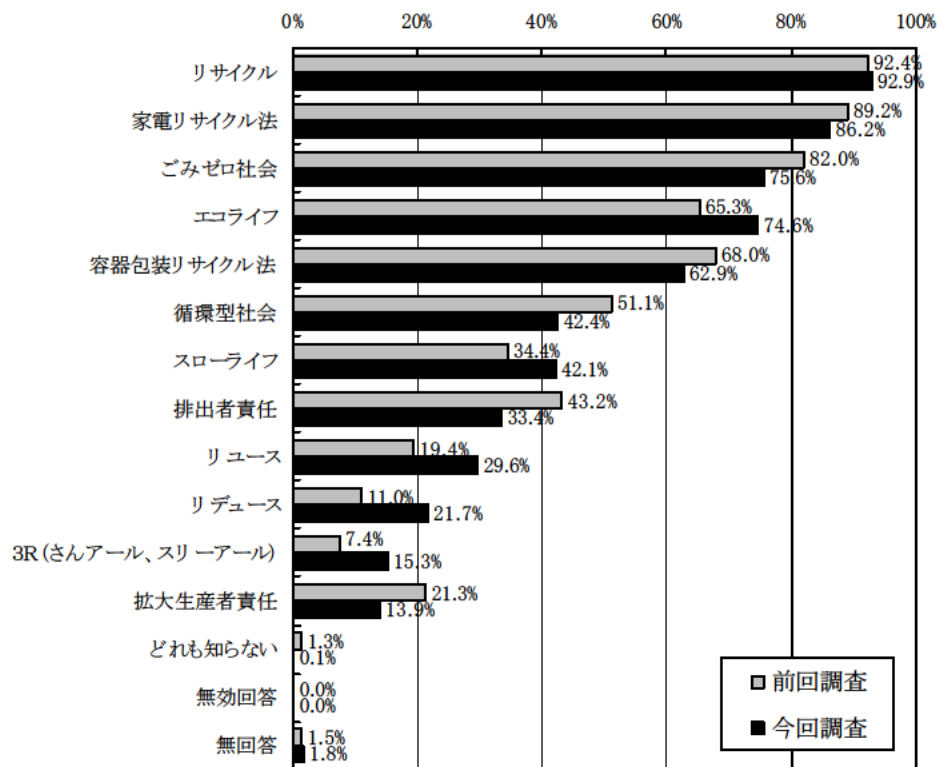
・ 賞味期限切れ等による食材廃棄について、前回調査との比較で見ると、「よくある」はほとんど変化がない。「たまにある」がやや減少しており、両方を合わせた割合は、69.3%から 67.0%へと2.3ポイントの減少となっている。
 ・ 逆に「あまりない」と「ほとんどない」を合わせた割合は、29.6%から 31.3%へと1.7ポイントの増加となっている。

(2)食べきれず、料理を捨ててしまうことはありますか？



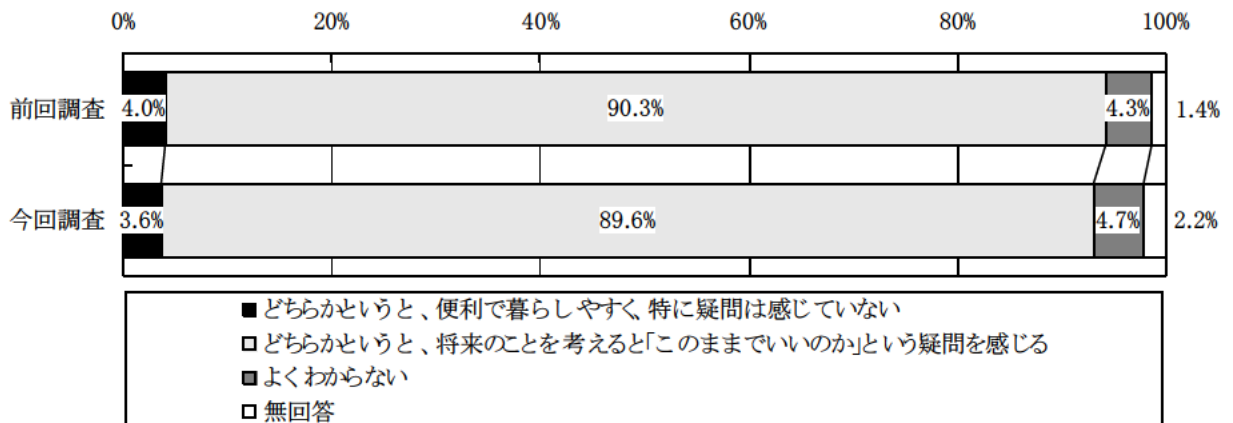
- ・ 食べ残しによる食品廃棄について、前回調査との比較で見ると、「よくある」はほとんど変化がない。「たまにある」がやや減少しており、両方を合わせた割合は51.5%から48.3%へと3.2ポイントの減少となっている。
- ・ 逆に「あまりない」と「ほとんどない」を合わせた割合は、47.3%から49.8%へと2.5ポイントの増加となっている。

問4 次のうち、だいたい意味がわかる言葉はどれですか？(○はいくつでも)



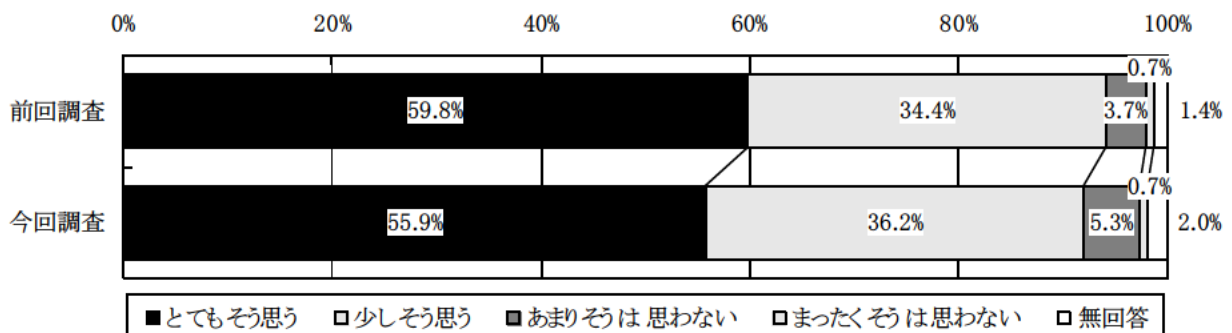
- ・ 前回調査ですでに92.4%と認知度の高かった「リサイクル」は、今回調査でもほとんど変化がなく、92.9%となっている。
- ・ 前回調査と比べて認知度が上がっているのは、「リデュース」の10.7ポイント増、「リユース」の10.2ポイント増、「エコライフ」の9.3ポイント増、「3R」の7.9ポイント増、「スローライフ」の7.7ポイント増で、逆に認知度が下がっているのは、「排出者責任」の9.8ポイント減、「循環型社会」の8.7ポイント減、「拡大生産者責任」の7.4ポイント減などである。

問5 使い捨て商品が身の回りにあふれ、その結果としてごみが大量に捨てられる現代の社会を、あなたはどのように感じていますか？(もっとも考えの近いもの1つに○)



- ・ 使い捨て社会への危機感については、前回調査と比べて特に大きな変化はなく、「どちらかという、将来のことを考えると『このままでいいのか』という疑問を感じる」が今回調査でも大半を占めている。

問6 ごみは手間やコストをかけてでも、できるだけ資源として有効利用すべきだと思いますか？(○は1つ)

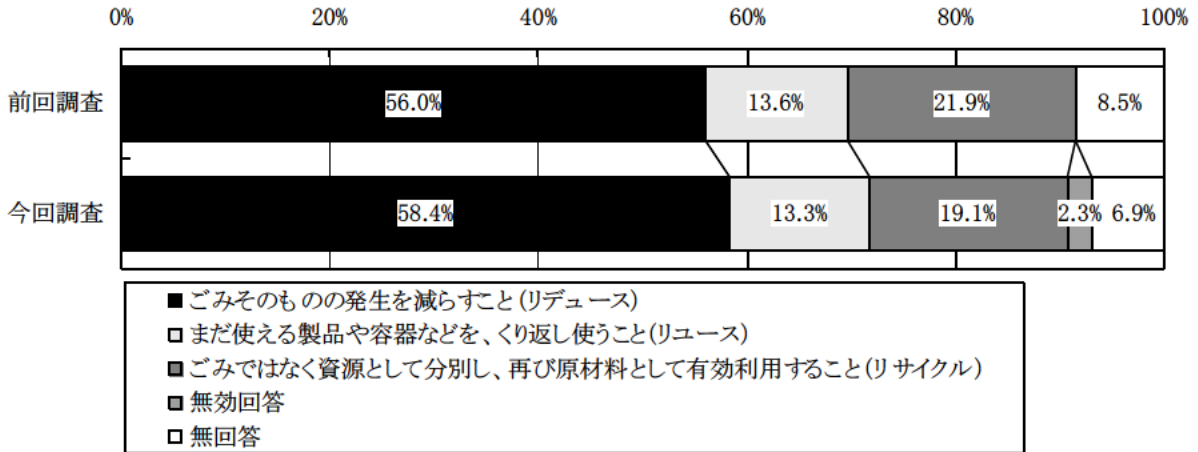


- ・ 「手間やコストをかけてでもごみを資源化すべきか」という問いについて、前回調査との比較で見ると、「とてもそう思う」が59.8%から55.9%へと、3.9ポイントの減少となっている。
- ・ 「あまりそうは思わない」は微増している。

◎ 現在行っているごみ減量やリサイクルの取り組みについてお聞きします。

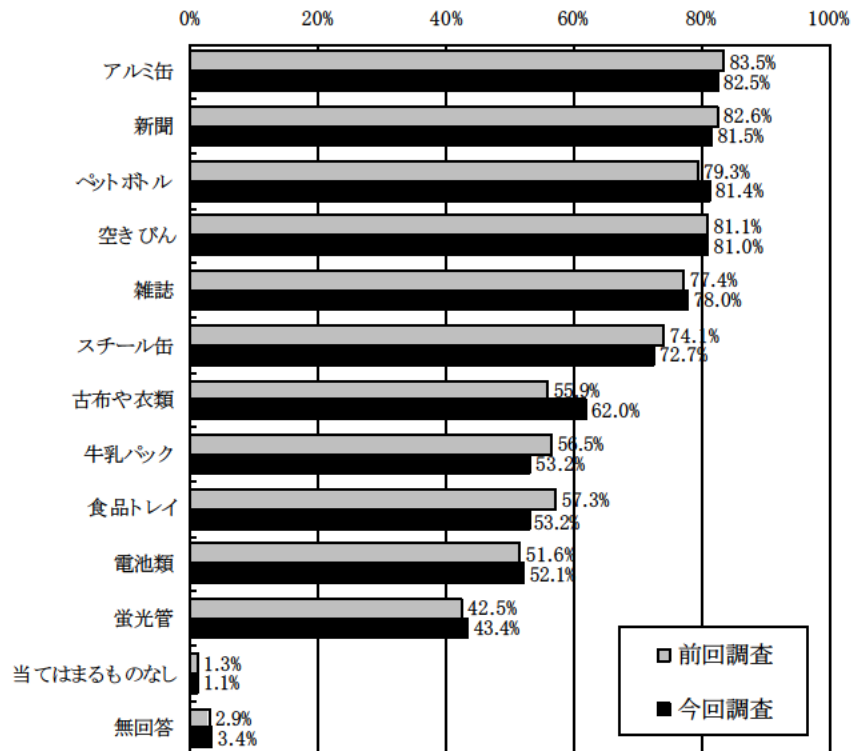
問7 ごみを減らす取り組みの中でどれが大切だと思いますか？

【最も大切だと思う】



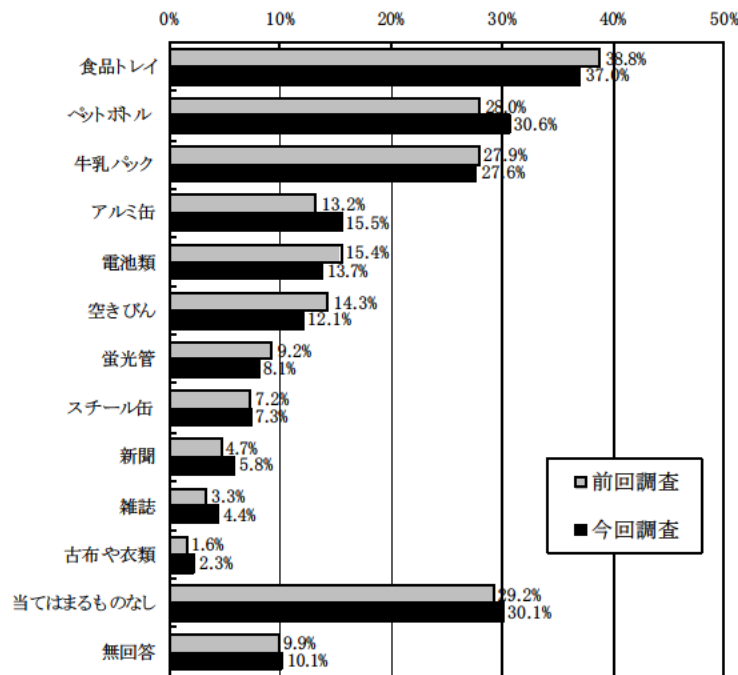
・ ごみを減らす取り組みの中で最も大切だと思うことについて、前回調査との比較で見ると、「ごみそのものの発生を減らすこと(リデュース)」が56.0%から58.4%へと2.4ポイント増となっているのに対し、「ごみではなく資源として分別し、再び原材料として有効利用すること(リサイクル)」は21.9%から19.1%へと2.8ポイントの減少となっている。

問8 あなたのご家庭では、次のうち、資源ごみとして市町の収集に出している品目はどれですか？
(当てはまるものすべてに○)



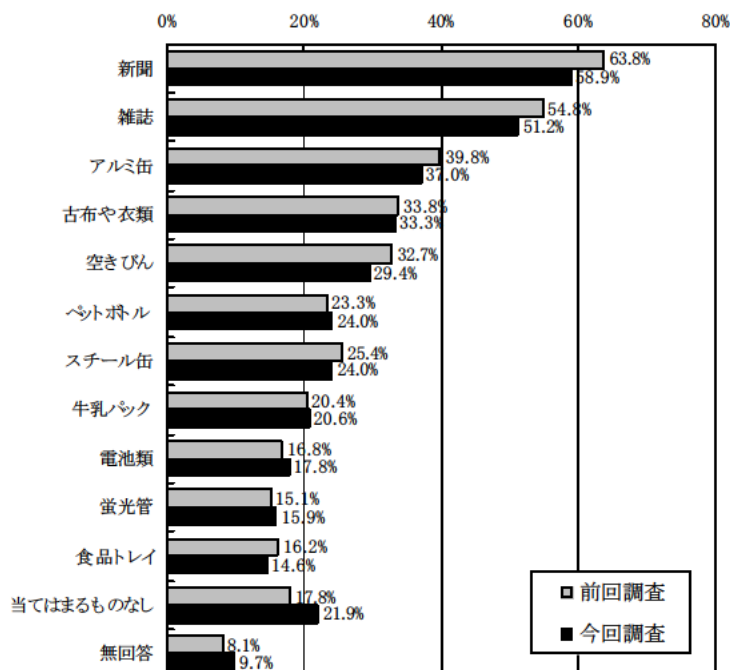
・ 資源ごみとして市町の収集に出している品目について、前回調査との比較で見ると、「古布や衣類」が6.1ポイント増、「ペットボトル」が2.1ポイント増であるのに対して、「食品トレイ」は4.1ポイント減、「牛乳パック」は3.3ポイント減となっている。

問9 あなたのご家庭では、次のうち、お店に持って行って回収してもらっている品目はどれですか？
(当てはまるものすべてに○)



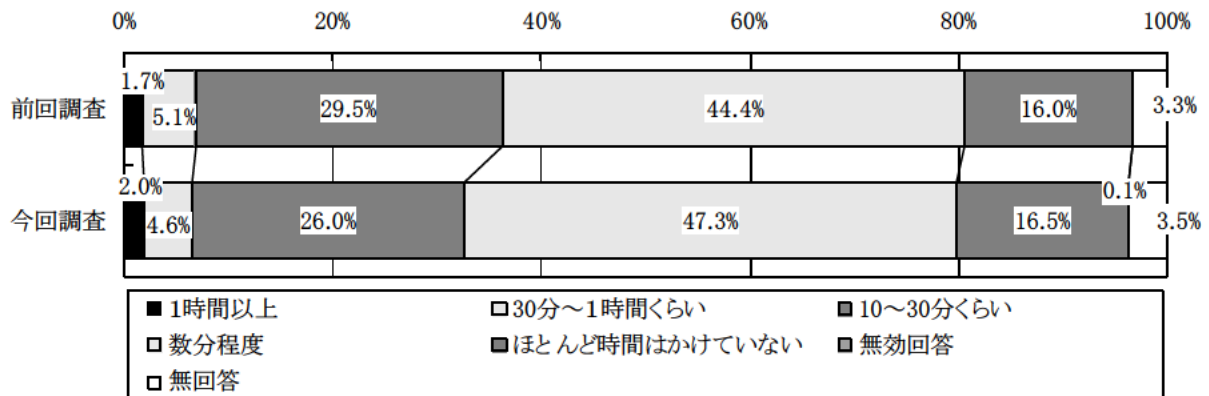
- 店頭回収に出している品目について、前回調査との比較で見ると、「ペットボトル」が2.6ポイント増、「アルミ缶」が2.3ポイント増であるのに対して、「空きびん」は2.2ポイント減、「食品トレイ」は1.8ポイント減、「電池類」は1.7ポイント減となっている。

問10 あなたのご家庭では、次のうち、地域で行われる廃品回収(集団回収)に出している品目はどれですか？
(当てはまるものすべてに○)



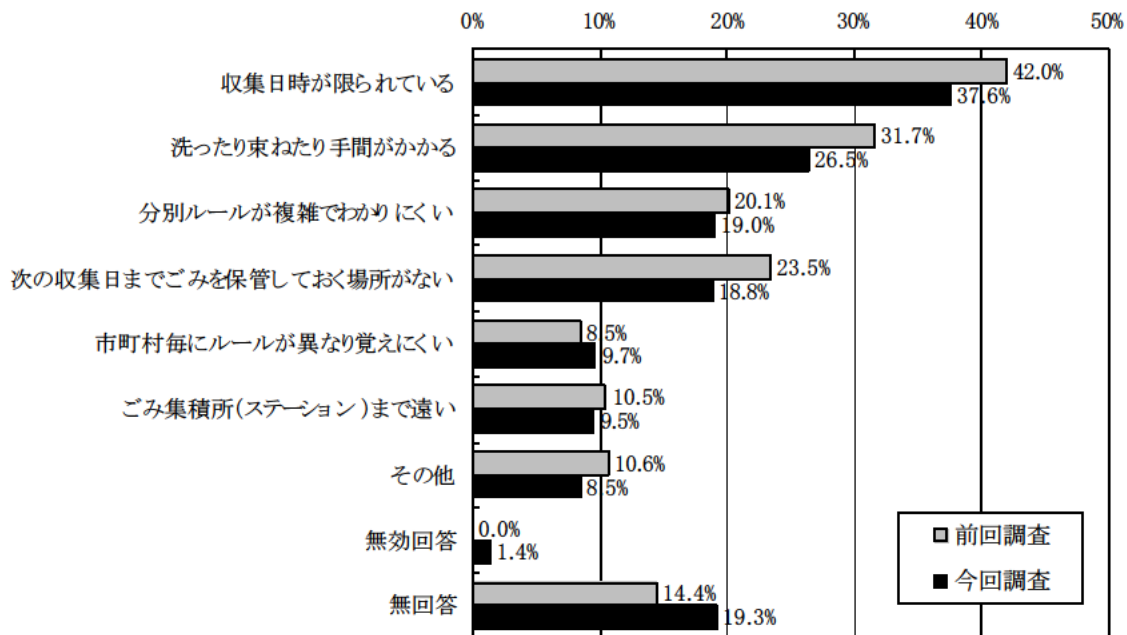
- 地域の廃品回収(集団回収)に出している品目について、前回調査との比較で見ると、全般的に変化がないか、減少傾向にあり、「新聞」が4.9ポイント減、「雑誌」が3.6ポイント減、「空きびん」が3.3ポイント減、「アルミ缶」が2.8ポイント減となっている。

問 11 ごみを分別するのに、あなたは1日あたりおよそどのくらいの時間をかけていると思いますか？（○は1つ）



- 家庭内でごみの分別に要している時間について、前回調査との比較で見ると、数分以内でごみの分別を済ませている割合（「数分程度」と「ほとんど時間はかけていない」を合わせた割合）が60.4%から63.8%へと3.4ポイント増となっているのに対して、分別に10分以上かけている割合（「1時間以上」、「30分～1時間くらい」、「10～30分くらい」を合わせた割合）は36.3%から32.6%へと3.7ポイントの減少となっている。

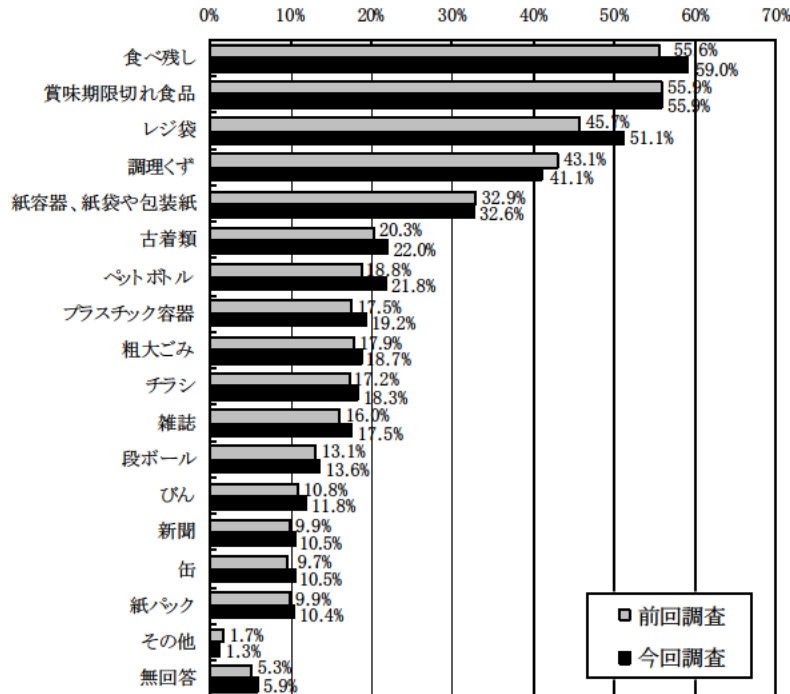
問 14 あなたのご家庭では、ごみを出すにあたり、どのような問題がありますか？（○は3つまで）



- ごみ出しで困ることについて、前回調査との比較で見ると、「洗ったり束ねたり手間がかかる」が5.2ポイント減、「次の収集日までごみを保管しておく場所がない」が4.7ポイント減、「収集日時が限られている」が4.4ポイント減など、ほとんどの項目で減少傾向となっている。

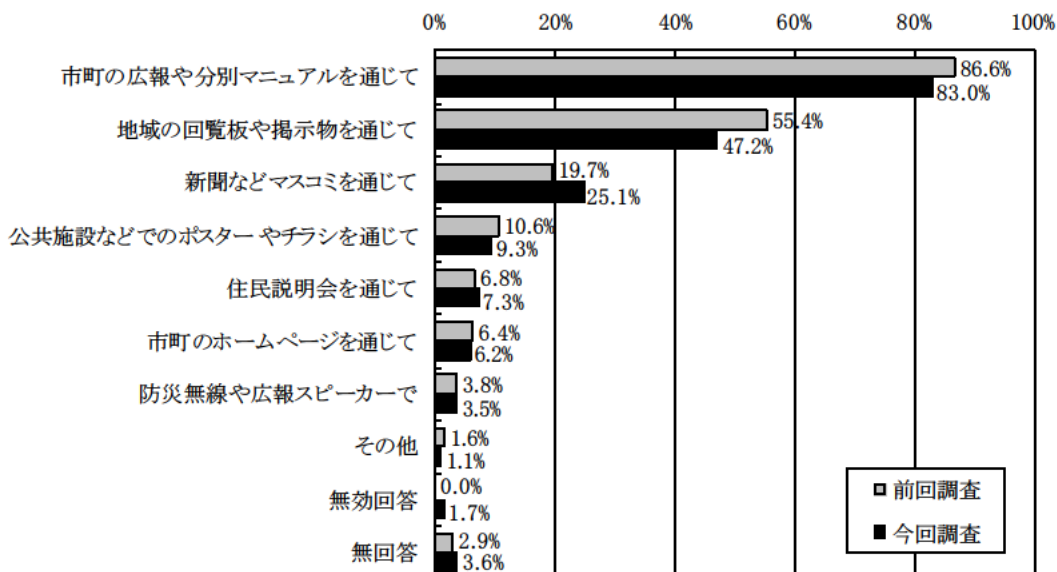
◎ 今後の方策に対する意向についてお聞きします。

問 15 今後あなたが、暮らしの工夫によって「家庭から出る量を減らせる」と思えるものはどれですか？
(○は当てはまるものすべて)



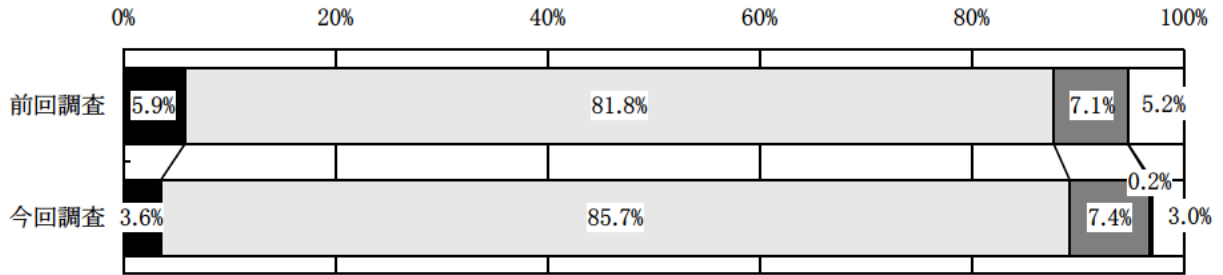
・暮らしの工夫で減らせるごみについて、前回調査との比較で見ると、「レジ袋」が5.4ポイント増、「食べ残し」が3.4ポイント増、「ペットボトル」が3.0ポイント増となっているのをはじめ、ほとんどの項目で変化なし、又は微増となっている。

問 16 ごみに関する情報を、あなたはどのような方法で手に入れていますか？(○は3つまで)



・ごみ関連情報の入手方法について、前回調査との比較で見ると、「新聞などマスコミを通じて」が5.4ポイント増となっているのに対して、「地域の回覧板や掲示物を通じて」は8.2ポイント減、「市町の広報や分別マニュアルを通じて」は3.6ポイント減となっている。そのほかの項目は、ほとんど変化が見られない。

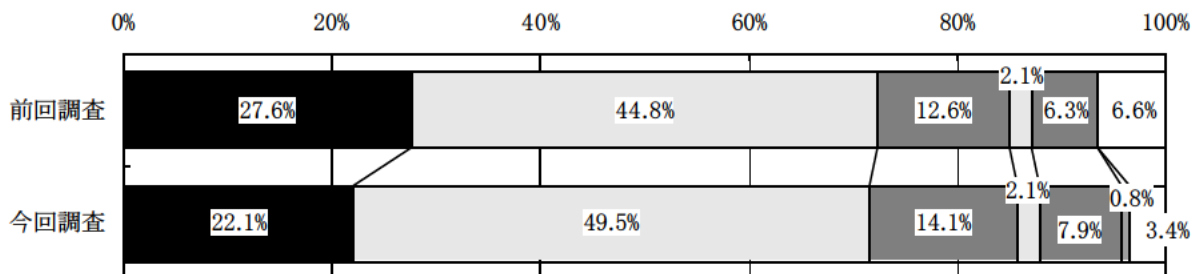
問 18 仮に、いつも買い物をするお店で、「レジ袋は1枚 10 円です」といわれたとします。
 次回の買い物から、あなたの行動はどう変わるとおもいますか？(○は1つ)



- 少しくらいお店が遠くても、ただでレジ袋がもらえる別のお店に足を運ぶと思う
- 少しくらいめんどくでも、買い物袋(マイバック)を持参するなどできるだけレジ袋を買わずに済む工夫をして、同じお店で買い物をと思う
- 1枚10円くらいならレジ袋を買って、これまでのお店で買い物をする
- 無効回答
- 無回答

・ レジ袋有料化による行動変化を前回調査との比較で見ると、「少しくらいめんどくでも、買い物袋(マイバック)を持参するなどできるだけレジ袋を買わずに済む工夫をして、同じお店で買い物をと思う」が 3.9 ポイント増となっているのに対して、「少しくらいお店が遠くても、ただでレジ袋がもらえる別のお店に足を運ぶと思う」は 2.3 ポイントの減少となっている。

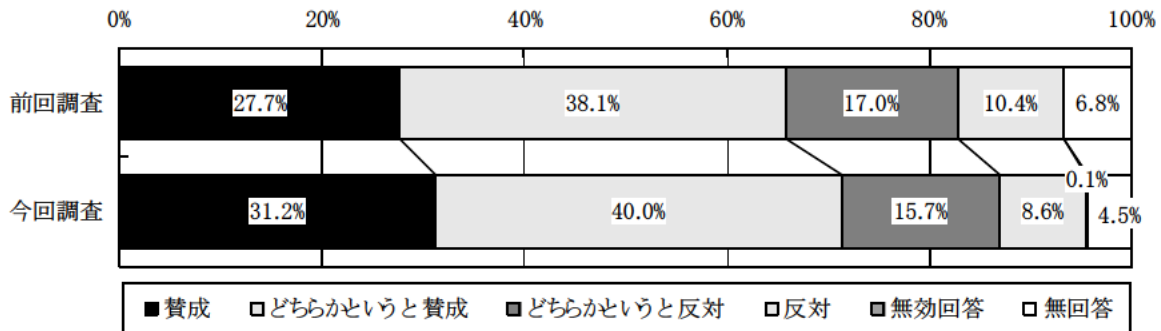
問 19 増え続けるごみを減らすため、ごみ(可燃ごみ)の排出に料金を課す市町が増えていきます。税金を使ってごみ処理を行うことについてどう思いますか？(○は1つ)



- ごみ処理は公共サービスなので、税金で処理するのがよい
- 最低限のごみ処理は税金で行い、それ以上のごみ処理は量に応じ出す人が負担するのがよい
- ごみ処理費用はごみの量に応じて出す人が負担する仕組みとすることで、これまでごみ処理に使っていた税金を福祉や教育などにまわすのがよい
- その他
- よくわからない
- 無効回答
- 無回答

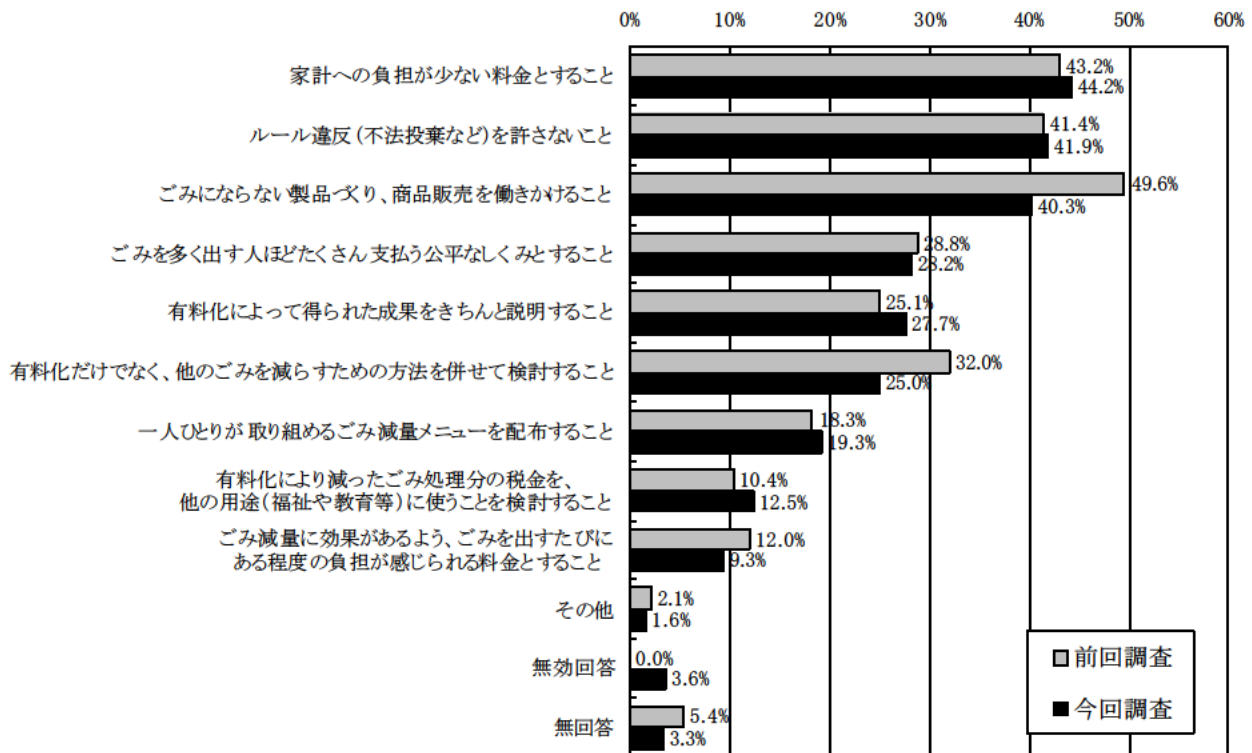
・ 税金によるごみ処理について、前回調査との比較で見ると、「ごみ処理は公共サービスなので、税金で処理するのがよい」は 5.5 ポイントの減少となっている。これに対して、「最低限のごみ処理は税金で行い、それ以上のごみ処理は量に応じ出す人が負担するのがよい」が 4.7 ポイント増となっている。

問 20 出したごみの量に応じて、多く出した者が多く負担するごみの有料化についてどう思いますか？(○は1つ)



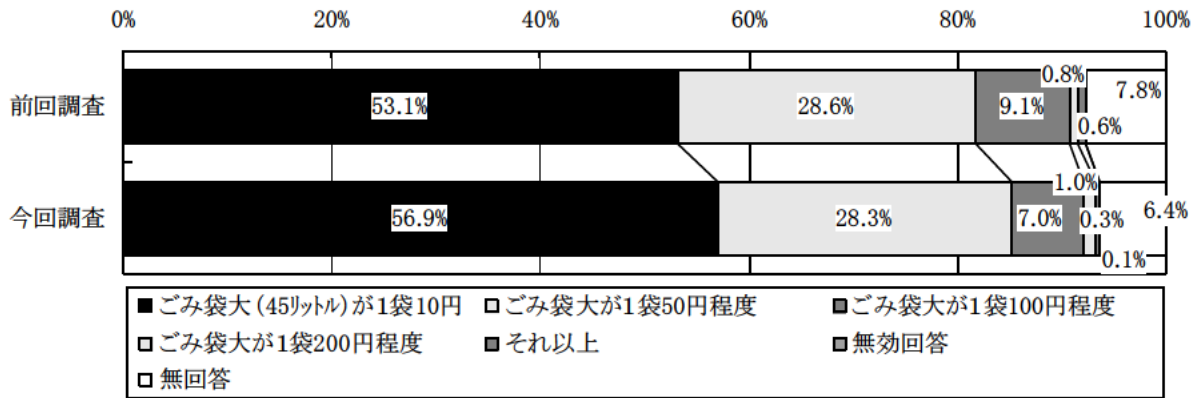
- 「ごみの量に応じて負担するごみ有料化についてどう思うか」という問いについて、前回調査との比較で見ると、「賛成」は 27.7%から 31.2%へと 3.5 ポイントの増加となっており、「どちらかという賛成」を合わせると、65.8%から 71.2%と 5.4 ポイントの増加となっている。
- 「どちらかという反対」と「反対」を合わせた割合は、3.1 ポイント減少している。

問 21 ごみ有料化を検討する場合、どのようなことを重視すべきだと思いますか？
(○は特に重要と思うこと3つまで)



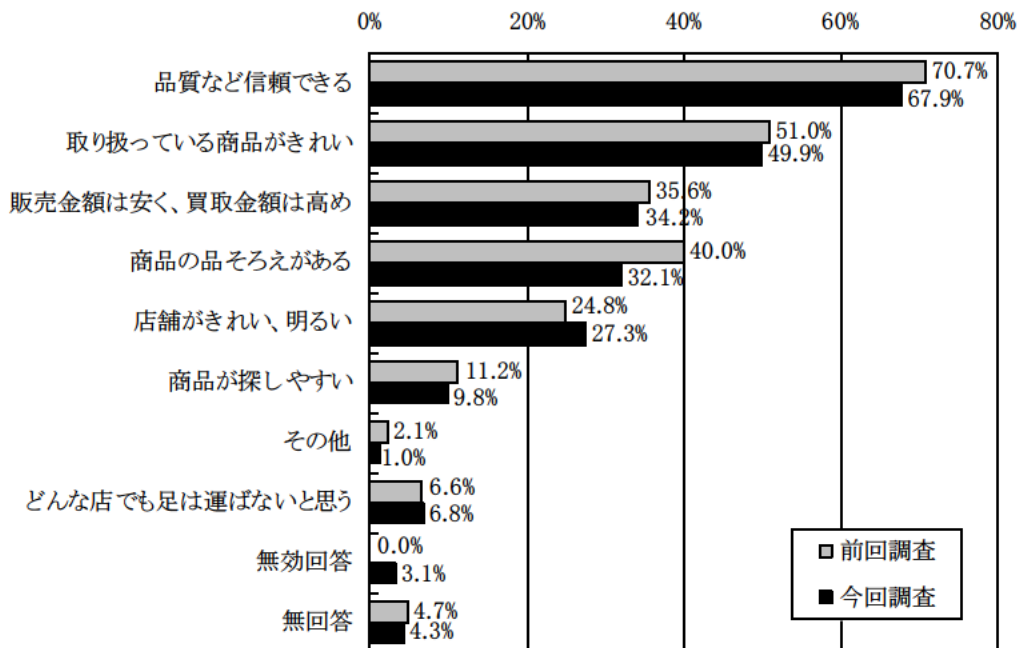
- ごみ有料化を検討するうえでの重視事項について、前回調査との比較で見ると、「有料化によって得られた成果をきちんと説明すること」が 2.6 ポイント増、「有料化によって減ったごみ処理分の税金を、他の用途(福祉や教育等)に使うことを検討すること」が 2.1 ポイント増となっているのに対し、「ごみにならない製品づくり、商品販売を働きかけること」は 9.3 ポイント減、「有料化だけでなく、他のごみを減らすための方法を併せて検討すること」は 7.0 ポイント減となっている。
- 前回 43.2%で第2位だった「家計への負担が少ない料金とすること」は、今回 44.2%と第1位になっている。

問 22 ごみ処理を有料化した市町では、料金を「指定のごみ袋」を購入するという形で支払うことが多く、「指定のごみ袋」は普通のごみ袋に比べて値段が高くなっています。有料化する場合、その料金としていくらまでなら受け入れられますか？(○は1つ)



・ ごみ有料化での受け入れ可能金額について、前回調査との比較で見ると、「ごみ袋大(45リットル)が1袋10円」が3.8ポイントの増加となっている。

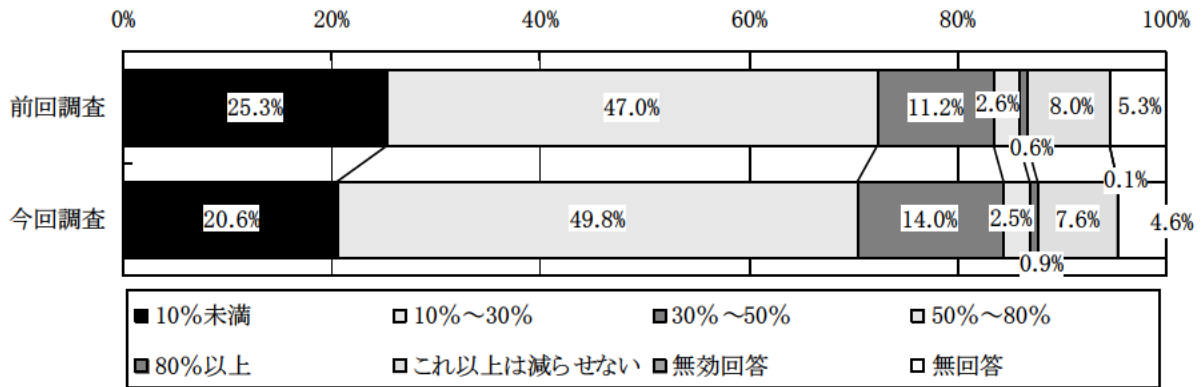
問 24 あなたの家の近くに中古の家電製品や家具を扱うお店(リサイクルショップ)ができたとします。この店がどんな店であったら、あなたは足を運んでみようと思いますか？(○は3つまで)



・ 利用したいリサイクルショップの条件について、前回調査との比較で見ると、「店舗がきれい、明るい」が2.5ポイントとやや増加しているほかは、全般的に減少傾向にあり、特に「商品の品そろえがある」は7.9ポイントの減少となっている。

・ 前回調査で70.7%と第1位だった「品質など信頼できる」は、今回調査でも67.9%と、第2位の「取り扱っている商品がきれい」に18ポイント差をつけ、第1位を占めている。

問 25 あなたのご家庭から出る可燃ごみに限って言えば、努力によりどれだけ減らせると思いますか？(○は1つ)

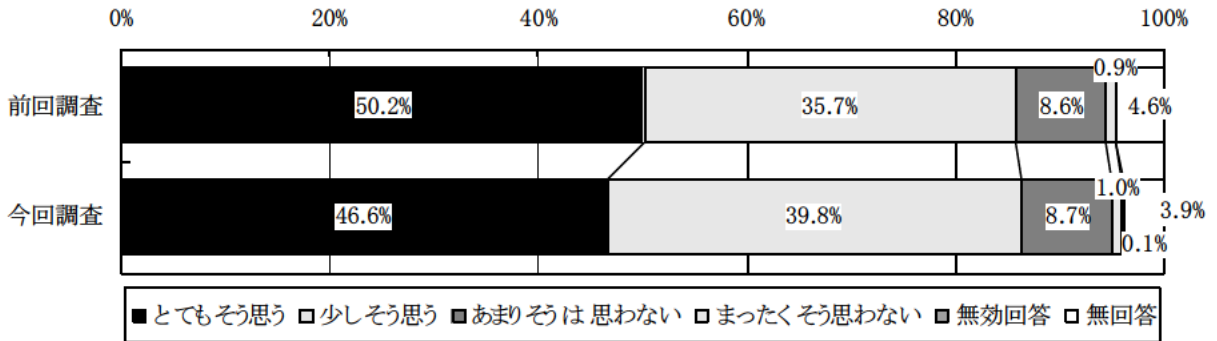


- ・ 「可燃ごみはどれだけ減らせるか」という問いについて、前回調査との比較で見ると、「10%~30%」と「30%~50%」でそれぞれ2.8ポイントずつ増加しているのに対して、「10%未満」は4.7ポイントの減少となっている。
- ・ 前回調査で47.0%と第1位だった「10%~30%」は、今回調査でも49.8%と、第2位の「10%未満」に約30ポイントの差をつけ第1位を占めている。

◎ 「ごみ処理基本計画」作りへの住民参画についてお聞きします。

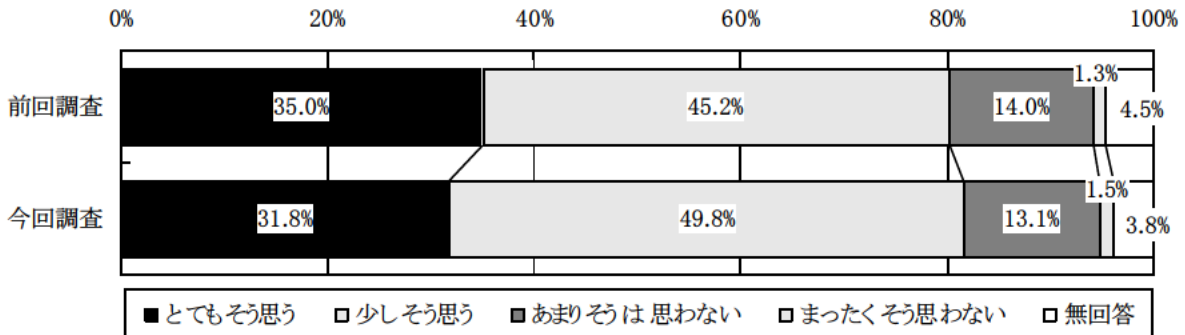
問 26 ごみ処理のあり方や具体的なごみ減量化施策について定めた市町の「ごみ処理基本計画」作りへの住民参加についてあなたの意見をお聞きします。(〇は1つずつ)

(1)計画作りには、できるだけ多くの住民が参加することが必要だと思いますか？(〇は1つ)



・「計画づくりへの住民参加は必要だと思うか」という問いについて、前回調査との比較で見ると、「とてもそう思う」が3.6ポイントの減少となっているのに対して、「少しそう思う」は4.1ポイントの増加となっている。

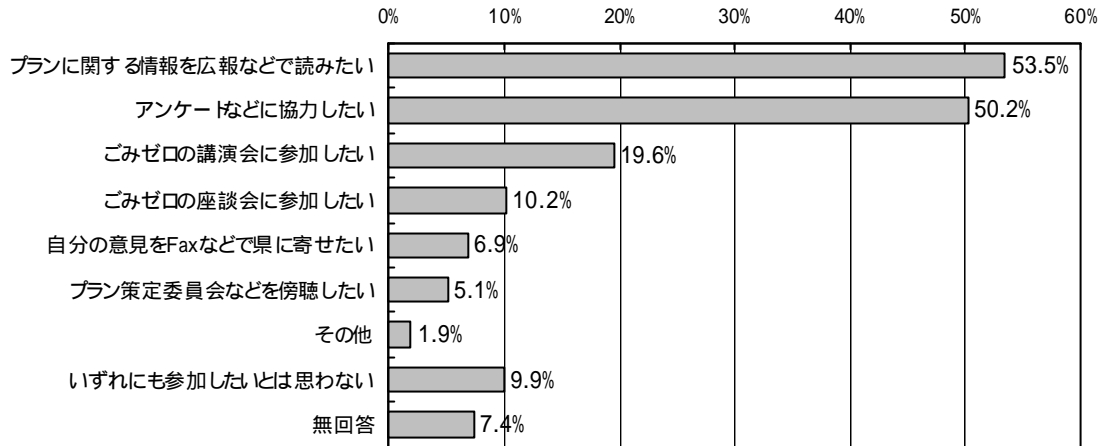
(2)計画作りに住民が参加すれば、住民の要望や意見を反映できると思いますか？(〇は1つ)



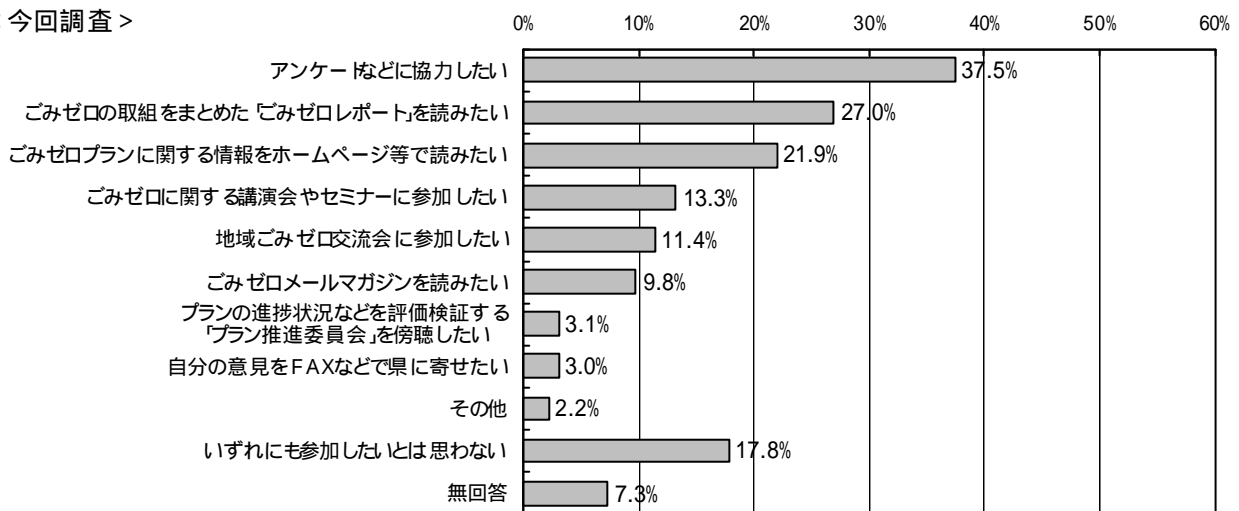
・「計画づくりに住民が参加すれば、住民の要望や意見が反映できるか」という問いについて、前回調査との比較で見ると、「とてもそう思う」が3.2ポイントの減少となっているのに対して、「少しそう思う」は4.6ポイントの増加となっている。
 ・「とてもそう思う」と「少しそう思う」を合わせた割合は、前回調査で80.2%、今回調査で81.6%と変わらず大半を占めている。

問 29 三重県の「ごみゼロ社会実現プラン」に関する県民参画の取り組みに参加したいと思いますか？
 （は当てはまるものすべて）

< 前回調査 >



< 今回調査 >



- ・ 「アンケートなどに協力したい」は、前回調査の50.2%から今回調査の37.5%へと12.7ポイントの減少となっているが、順位は前回の第2位から第1位に上がっている
 - ・ 「いずれにも参加したいとは思わない」は、前回調査の9.9%から今回調査の17.8%へと7.9ポイントの増加となっている
- ただし、選択肢が前回調査と今回調査で違うため、条件は異なる。

ごみゼロプラン推進計画

協働

①市町等モデル事業への支援

②市町ごみ処理システムの最適化

検証

①ごみゼロプラン推進委員会

②一般廃棄物実態調査

広報・啓発

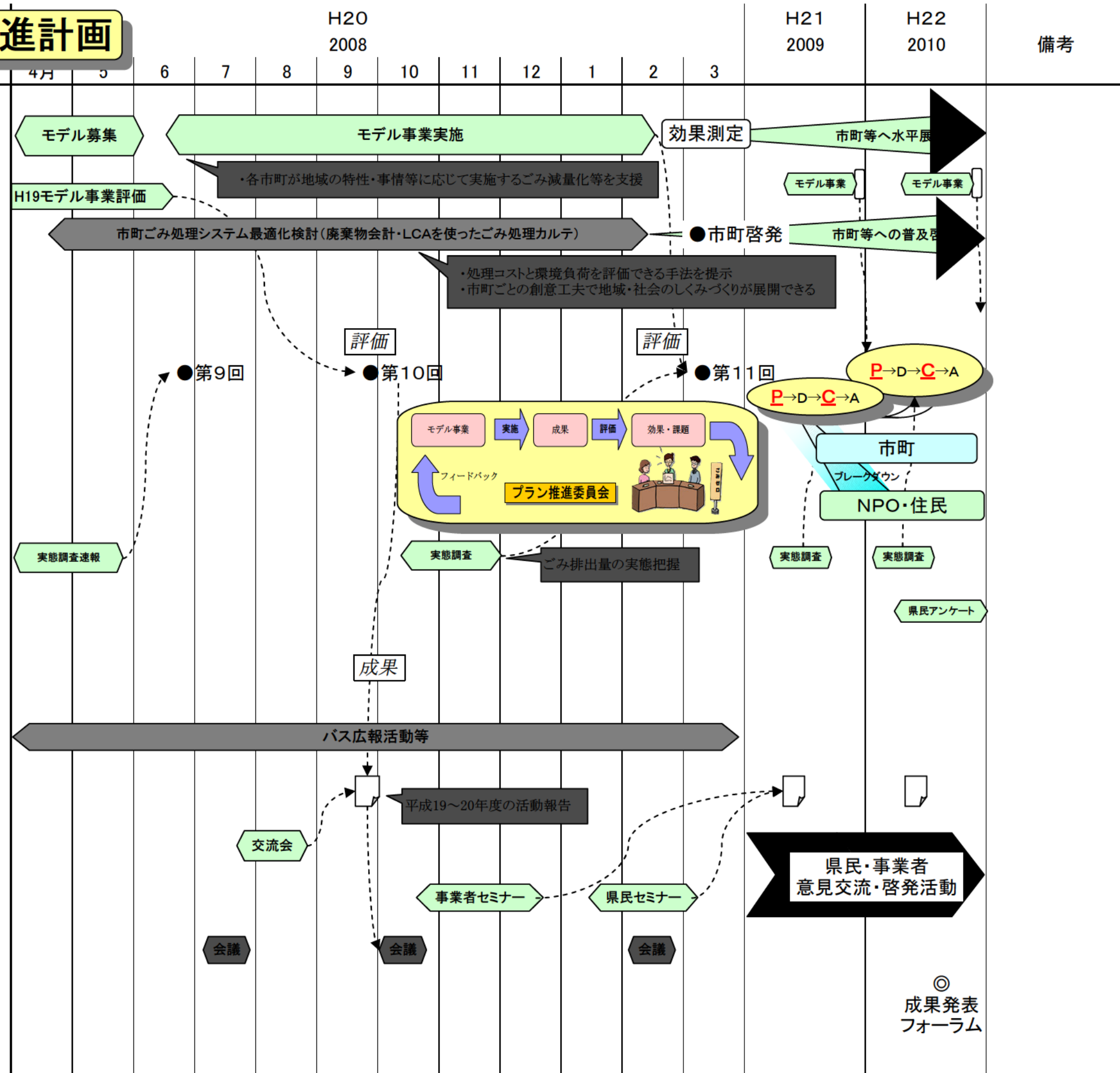
①キャラクターを使った広告・啓発

②ごみゼロ点検評価・レポート発行

③地域ごみゼロ交流会

④ごみゼロセミナー

⑤行政連絡会議



◎ 成果発表フォーラム



ごみゼロ社会づくり

「ごみゼロ社会」実現推進事業
(平成 20 年度予算額 : 28,458 千円)

環境森林部
ごみゼロ推進室
TEL 059-224-3126

ごみゼロキャラクター ゼロ吉

ごみゼロ社会実現プラン

【数値目標】	【短期 2010 年度】 (平成 22 年度)	【目標 2025 年度】 (平成 37 年)
○ごみ排出量削減率	(家庭系) 6%	30%
	(事業系) 5%	30%
○資源としての再利用率	21%	50%
○ごみの最終処分量	81,000 ト	0 ト
○ものを大切に使うと する県民の率 等	80%	100%



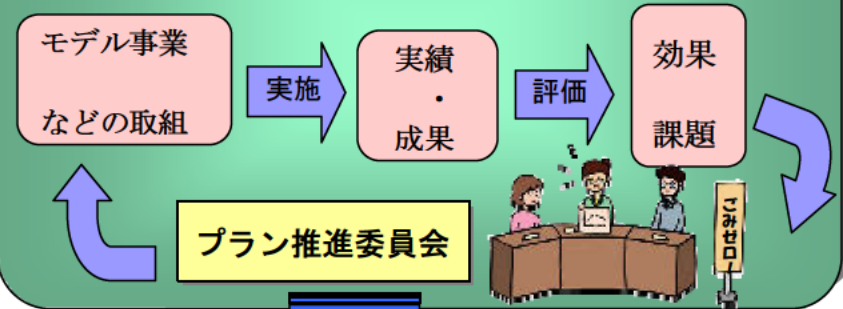
各主体に期待する役割・取組

住民	市町のごみ減量化施策等への参画
事業者	製品の開発・流通・消費各段階での 廃棄物減量に向けた工夫・取組
市町	家庭ごみ有料化、生ごみ再資源化 等のごみ減量化施策の推進
NPO 等 団体	市町の施策への参画、資源物回収 等の自主的取組の実施・運営

《プランの普及・啓発と成果の共有》

プランの点検・評価 1,475 千円

プラン推進委員会との連携による、PDCAサイクルに
基づくマネジメントの実施



《ごみ減量化に向けたモデル事業の実施と新たな仕組み等の提案》

モデル事業の実施とその成果の普及に向けて 15,000 千円

- ・市町が行う、プランに沿ったごみ減量化に効果的な取組をモデル事業として支援
- ・モデル事業の成果を整理・活用し、短期目標の達成に向け県全域へ展開

(取組例)

- 廃棄物会計等を活用した、コスト・環境負荷面からの市町ごみ処理事業効率化の検討
- 事業系生ごみの再資源化システムの検討
- 廃食用油のバイオ燃料 (BDF) 化による活用システムの検討 など

市町への廃棄物会計等の導入検討 4,441 千円

- ・ 廃棄物会計基準等の情報を含んだ市町ごみ処理カルテの作成・活用
- ・ 廃棄物会計基準等を活用した、家庭ごみ有料化制度の導入や効率的なごみ処理システム等の市町への提案

連携
協働

ごみゼロへの気運醸成に向けた情報発信・PR 5,778 千円

ごみゼロDVD・バス広告
ごみゼロレポート・パンフの作成

行政連絡会議の開催 80 千円

市町・県
プランの共有と推進、取組に関する連携の強化と情報の共有、その他諸課題の協議等

地域ごみゼロ交流会の実施 1,107 千円

県民・NPO・地域団体
住民主体のごみ減量活動促進のための啓発、情報交流、事例研修

ごみゼロセミナーの開催 577 千円

県民・NPO・事業者・商工会議所等
各主体のごみ減量活動促進のための啓発、先進事例等に関する研修

